

第2章 安来市の健康と食の現状と課題

1. 人口動態

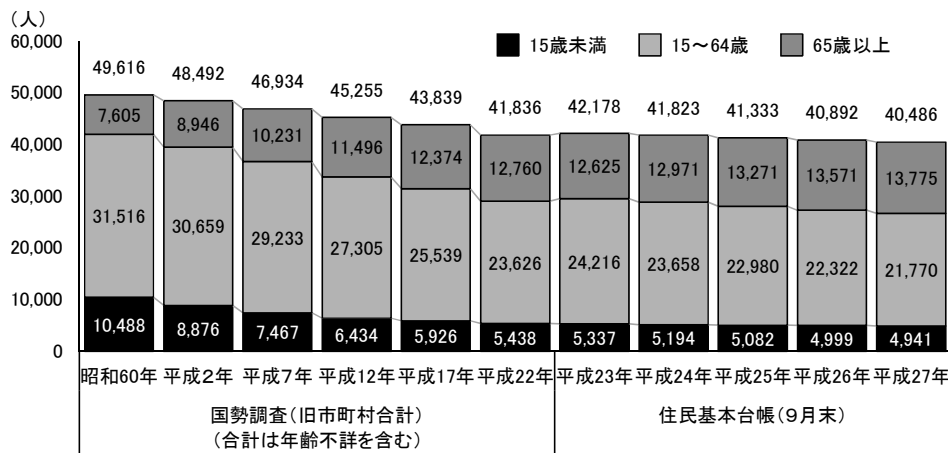
本市の人口の推移を見ると人口の減少が続いており、平成22年の国勢調査では4万2千人を割り込む結果となっています。近年の動きを住民基本台帳で見ると、平成27年には40,486人となっています。

この間において、少子高齢化が進行し、平成26年からは15歳未満の子どもの数が5,000人を下回った一方で、高齢者数は増加しています。高齢化率では県平均を上回って伸びており平成27年で33.2%と、人口のほぼ3分の1が高齢者となっています。

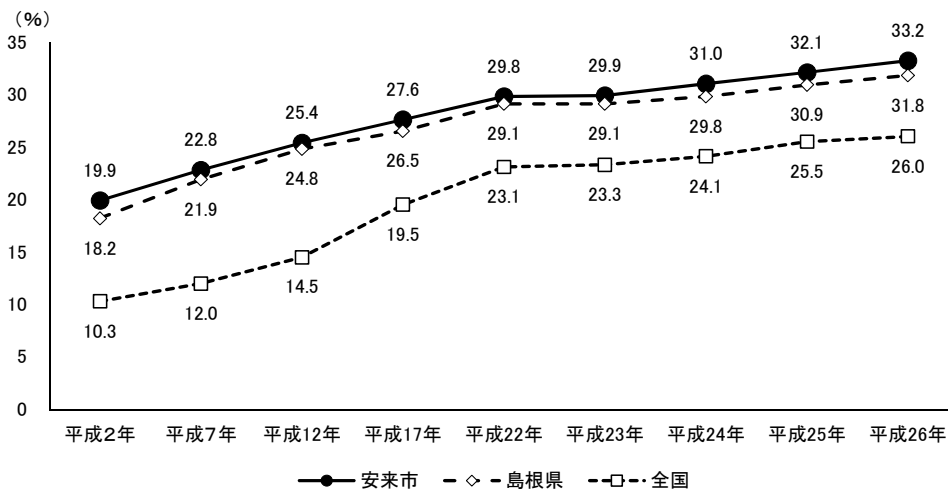
少子高齢化に伴い、人口動態においても死亡数が出生数を大きく上回っており、人口の自然減が続いています。

介護保険の認定状況では、要支援・要介護認定者数は緩やかに増加傾向にあります。また、認定率ではほぼ横ばいの傾向となっていますが、国、県の平均を上回って推移しています。

■ 年齢3区分人口及び総人口の推移

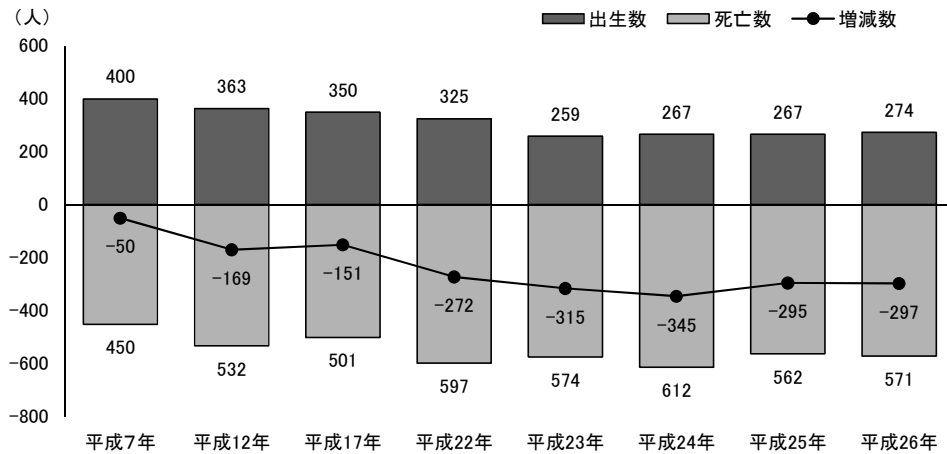


■ 高齢化率の推移と比較(住民基本台帳)

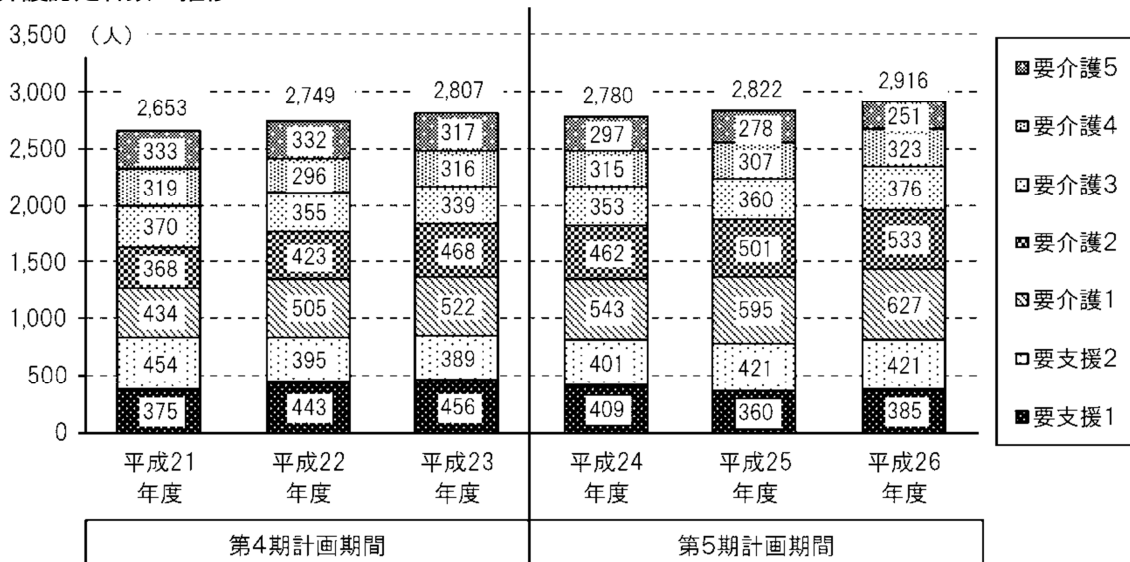




■ 人口の自然動態(住民基本台帳)

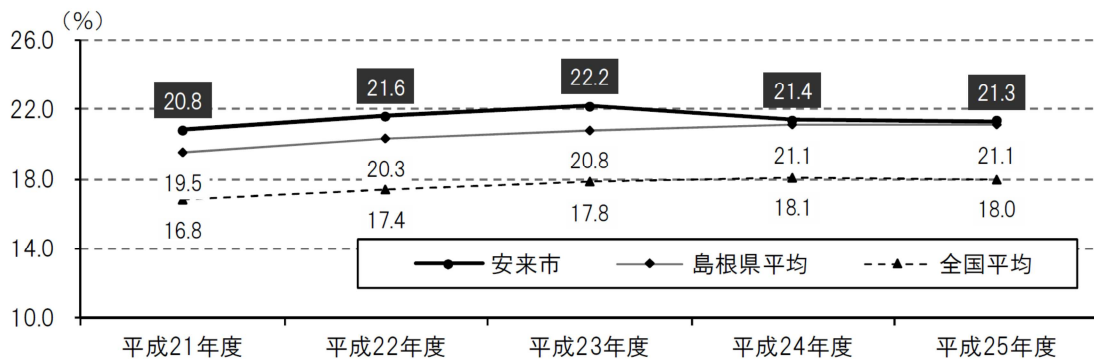


■ 要介護認定者数の推移



資料: 第6期安来市高齢者福祉計画・介護保険事業計画

■ 要介護認定者率の推移



注: 認定率 = 認定者数(第1号 + 第2号被保険者) ÷ 第1号被保険者数

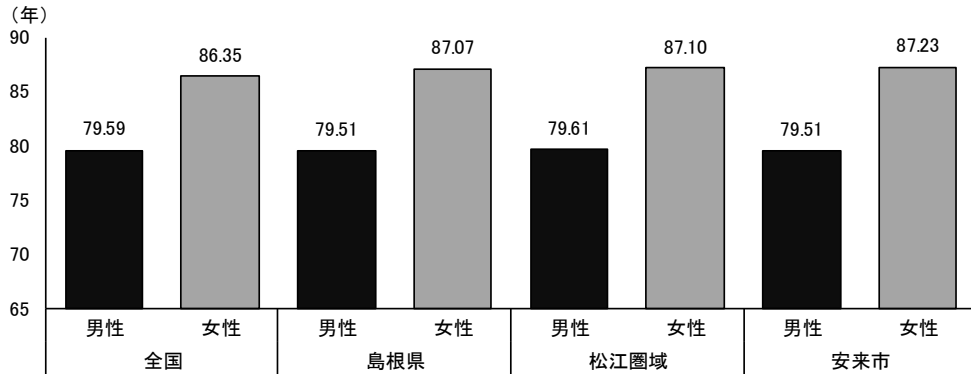
資料: 第6期安来市高齢者福祉計画・介護保険事業計画

【平均余命と平均自立期間の比較】

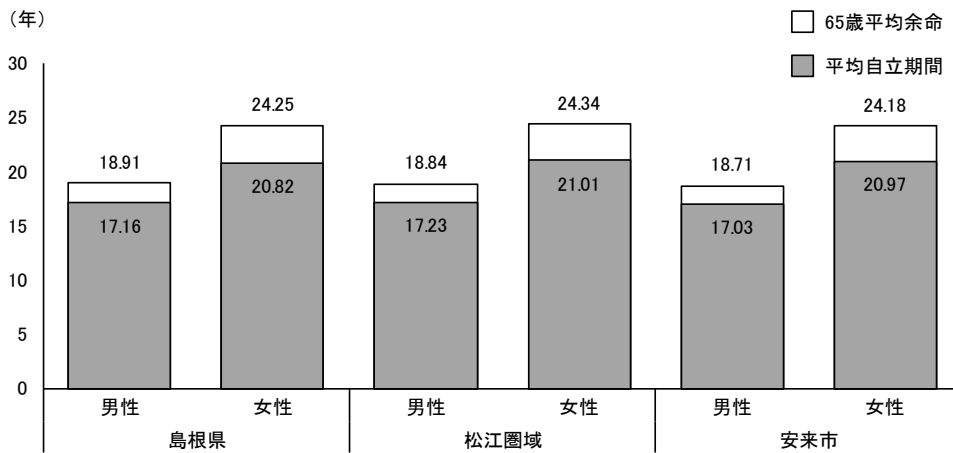
本市の平均余命は、男性が79.51歳で島根県平均程度、女性が87.23歳で島根県平均より高くなっています。

65歳の平均余命では、男女とも県平均を下回っています。島根県では健康寿命の指標を65歳時点での平均自立期間（介護が必要になるまでの期間）としており、男女とも平均余命との差が県平均より小さく、元気で暮らしている期間がやや長いことがうかがえます。

■ 平均余命(平成22年国勢調査より)



■ 65歳の平均自立期間(平成22年を中間とする5年間、島根県調べ)



健康寿命とは

健康寿命とは、心身ともに自立した活動的な状態で生存できる期間で、あと何年健康な生活ができるかを示すものです。よって、あと何年生きることができるかを示す平均余命とは異なります。平均自立期間は、あと何年自立した生活が期待できるかを示したもので、健康寿命の指標の一つです。

島根県では、介護保険の介護認定データを基に要介護者割合を算出し、生命表に割り当てることで平均自立期間を算出しています。なお、要介護者割合は介護度2～5の者を用いています。



2. 分野別に見る評価と現状・課題

(1) 安来市健康増進計画（第2次）の評価と現状・課題

目標に対する達成状況について、以下の通り分析・評価を行いました。

健康目標では、16項目中3項目が改善、健康指標では33項目中18項目が改善という結果でした。

A	目標値に達した
B	目標値に達していないが、改善傾向にある
C	変わらない
D	悪化している
E	指標又は把握方法が異なるため評価が困難

なお、市民意識調査を基にした評価では、無回答を除いた割合を基準としています。

①健康目標

がんなどの年齢調整死亡率を見ると、多くの疾病において死亡率が悪化しています。

特定健診における健康状況を見ても、改善している指標はなく、市民の健康状況の悪化が見られる結果となっています。

検診受診等の重要性を理解し、早期治療開始により改善可能な場合も多く、市民の意識醸成が必要です。

■ 年齢調整死亡率(40～69歳)

指標	平成17年度値	平成27年度目標値	平成22年達成値※	評価
胃がん年齢調整死亡率	男性27.7 女性 9.8	男性25.0 女性 8.8	男性29.2 女性15.0	D
肺がん年齢調整死亡率	男性36.7 女性 6.1	男性32.2 女性 5.5	男性48.1 女性 4.3	D A
大腸がん年齢調整死亡率	男性17.4 女性19.7	男性16.4 女性16.4	男性27.4 女性20.6	D D
乳がん年齢調整死亡率(女性)	26.0	13.4	21.7	B
子宮がん年齢調整死亡率(女性)	0	0	5.0	D
脳卒中年齢調整死亡率 (脳血管疾患)	男性53.8 女性22.3	男性41.7 女性18.8	男性42.7 女性25.8	B D
心臓病年齢調整死亡率 (虚血性心疾患)	男性19.5 女性 5.1	男性15.6 女性 3.9	男性31.5 女性 9.4	D
自殺年齢調整死亡率	38.1	なくす	男性75.2 女性14.2	D

※ 平成20～24年の平均値のため平成22年が最終値。

【年齢調整死亡率】

死亡数を人口で除した通常の死亡率を比較すると、自治体ごとの年齢構成に差があるため、高齢者が多いと高くなり、若年者が多いと低くなります。年齢構成の異なる地域間で死亡状況の比較ができるように年齢構成を調整した死亡率が年齢調整死亡率（人口10万対）です。これにより、年齢構成が異なっても、より正確に地域比較や年次比較をすることができます。

■ 国保特定健診結果概要

指標	平成21年度値	平成27年度目標値	平成26年度達成値	評価
糖尿病の予備群の割合 (国保特定健診保健指導区分)	36.0%	32.4%	37.5%	E※
BMI指数25以上の割合 (国保特定健診保健指導区分)	21.8%	20.0%	22.0%	D
血圧高値の人の割合 (国保特定健診保健指導区分内服含)	41.7%	37.6%	57.8%	E※ ²
脂質異常の人の割合(中性脂肪値) (国保特定健診保健指導区分内服含)	18.0%	17.2%	19.7%	D
80歳の残存歯が20本以上の割合	30.1% (平成22年度)	37.1%	13.3%	E※ ³

※ 2012年に糖尿病の基準となるHbA1cの基準がJDS値からNGSP値に変更されるなど、単純な比較が困難。

※² 血圧高値を、収縮期血圧130mmHg/dℓ以上、又は拡張期血圧85mmHg/dℓ以上としたため、単純な比較が困難。

※³ 前回は島根県残存歯数調査75～84歳。平成26年度は8020達成者表彰の結果より。

【市民意識調査の結果から】

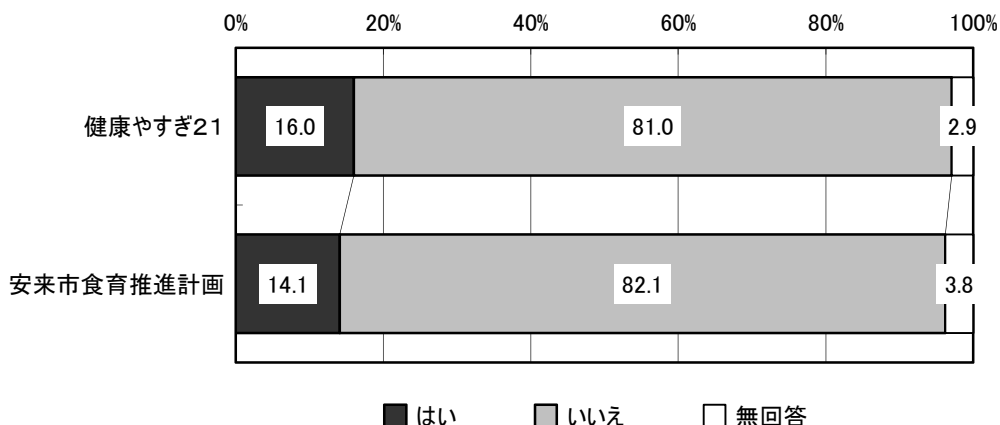
計画の認識は、平成22年の調査では21.1%でしたが、今回の調査では16.0%と減少していました。食育推進計画についても14.0%程度でした。

市民の健康観は、「よい」、「まあよい」、「ふつう」を合わせると約85%と、前回調査同様に高いものとなっており、多少の疾病や生活習慣病にかかわらず、元気に生活できている実態がうかがえます。

健康への取組では、食生活や健診（検診）受診、歯、ストレス解消などが上位に上がっていますが、運動習慣への関心は5番目となっているほか、健康に気を遣っていない人も15.0%程度見られ、前回の0.6%から大きく増加しました。

市の健康づくりと食育の計画を知っていましたか

(SA) N=1,535



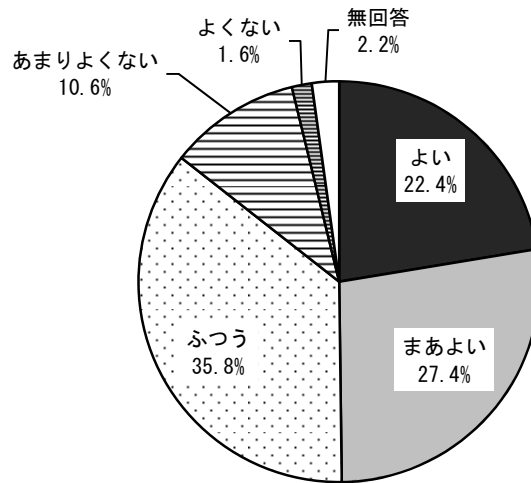
【グラフ中の記号の意味】

(SA)：単数回答の設問 (MA)：複数回答の設問 N：有効回答数
以下、本書中の調査結果すべてに共通します。



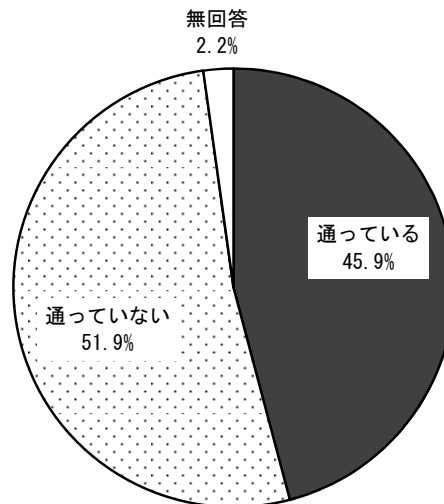
現在の健康状況

(SA) N=1,535



病気で通院していますか

(SA) N=1,535



健康観とは

WHO（世界保健機関）憲章の前文では、「健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあることを言います。」と定義しています。

従来の身体的な健康とこころの健康を合わせ、「健康である」と感じていることを増やすことを、健康観を高めることとしており、そのためには個人だけでなく、社会的にも取り組む必要があるとされています。

② 食事 みんなでつくろう、よりよい食習慣と食環境

【現状と課題】

- 薄味に気をつけている人の割合は平成22年の59.8%から62.3%と増加しているものの、朝食を毎日食べている人の割合は約85%で横ばいとなっています。
- 野菜を1日3回食べている人は、前回調査と変化なく約3割にとどまっています。
- 食生活改善推進員数は、会員の高齢化もあり、83人から53人と大きく減少しており、養成の必要があります。
- 市民調査では食生活に問題を感じている人が過半数に達しています。あわせて食生活を今よりよくしたいと感じている人が約半数あることから、正しい知識と食習慣の普及を一層図っていくことが必要です。
- 20歳代に毎日朝食をとらない人が多く、34.2%あります。
- 食習慣では「薄味に心がけている」や「塩辛いものを控えるようにしている」「自分にとって適切な食事内容・量を知っている」の3項目で「いいえ」が3割を超えており、適切な塩分や食事量などについて意識を高める必要があります。
- 若い人ほど外食や市販の弁当の利用が多い傾向がうかがえます。この傾向は顕著ではないものの調理済み食品やインスタント食品の利用でも見られます。

【前計画の評価】

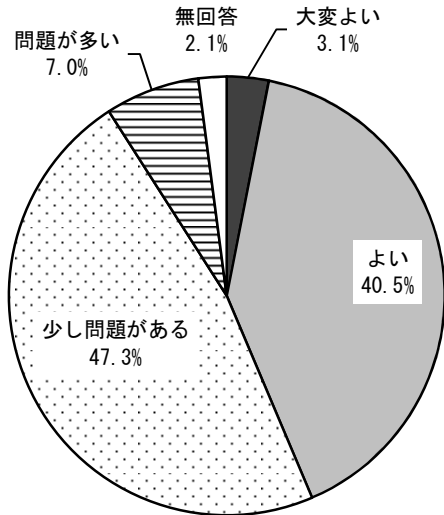
目標指標	平成22年度値	平成27年度目標値	平成27年度達成値	評価
朝食を毎日食べている人の割合	85.4%	90.0%	85.2%	C
野菜を1日3回以上食べている人の割合	31.0%	60.0%	30.2%	C
薄味に気をつけている人の割合	59.8%	70.0%	62.3%	B

支援環境整備指標	平成22年度値	平成27年度目標値	平成27年度達成値	評価
食生活改善推進員数	83人	増やす	53人	D
健康づくり応援店	21件	増やす	20件	C

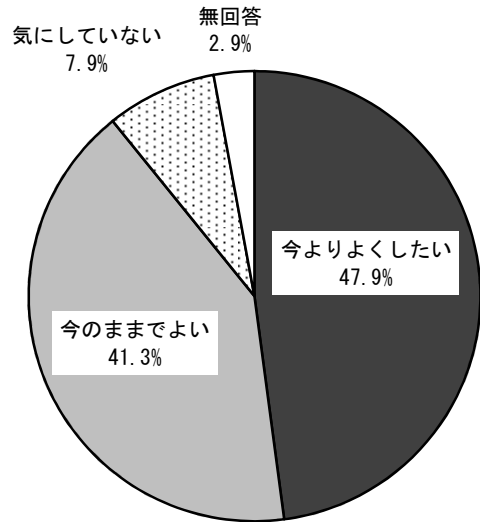


【市民意識調査の結果から】

■ 現在のご自分の食生活について
(SA) N=1,535

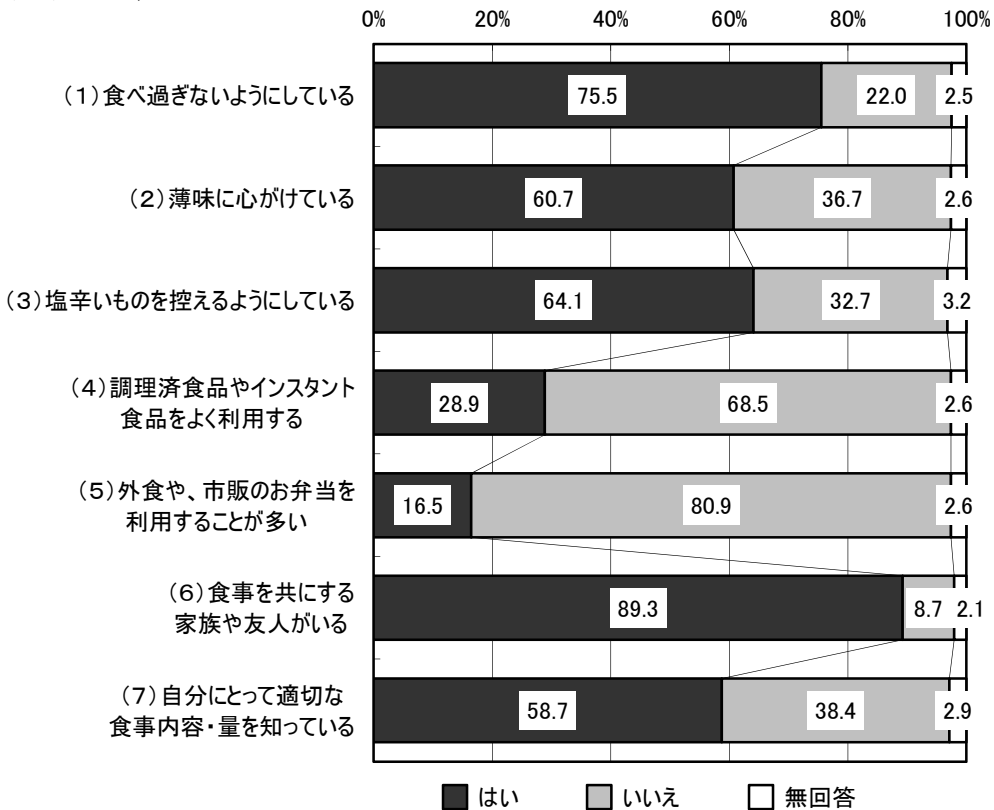


■ 自分の食生活の今後の希望
(SA) N=1,535

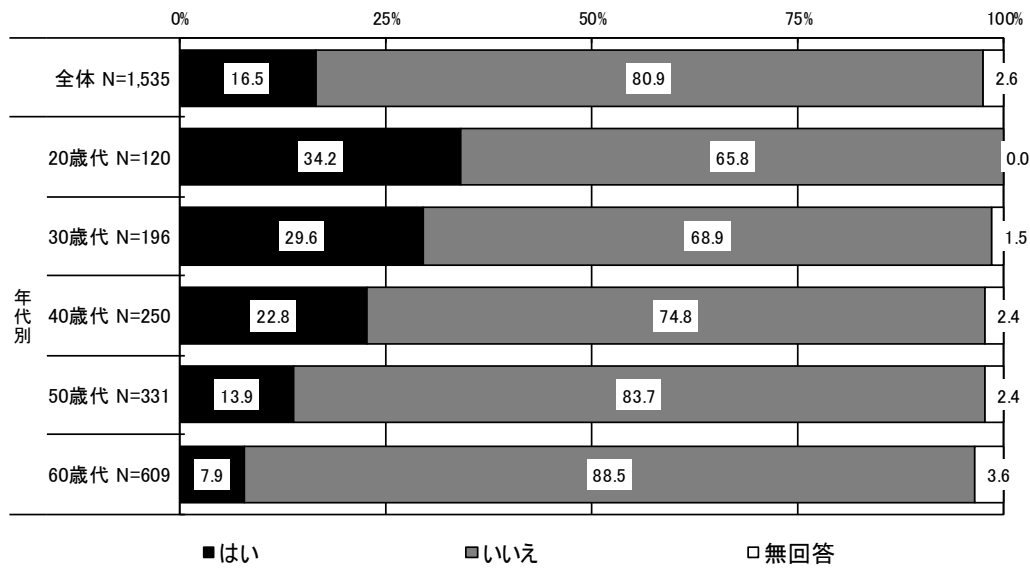


■ 食習慣について

(SA) N=1,535



■ 外食や、市販のお弁当を利用する人(年代別)





③運動 楽しく取り入れ、続けよう運動、体力づくり

【現状と課題】

- ウォーキング大会は5,000人の参加者のある「なかうみマラソン全国大会」でも行われるとともに多くの地区でも毎年実施されています。
- 各地域でのウォーキング大会など、様々な運動の機会が提供されていますが、参加者の固定などの課題もあり、年齢や経験に関係なく、多くの市民が参加しやすいよう場を増やす必要があります。
- 運動習慣のある人は微増していますが、歩く習慣のある人は横ばいで、45.4%と一番多い状況となっています。取り組みやすいウォーキングから始めるよう働きかけが必要です。
- 日常生活の中に運動する機会を取り入れるとともに、地域ぐるみでの活動の強化が必要です。
- ワークショップでは、運動が健康に良いこともわかっているが、何をすればいいかわからない、運動の指導者が不足している等の課題が上がりました。
- 運動習慣のある人は比較的高齢の方に多く、働き盛りの運動習慣づくりが課題です。
- 「ロコモティブシンドローム（運動器症候群）」について、約3分の2の人が「知らない」と回答しています。今後、様々な機会を通して啓発が必要です。
- 「運動はしていない」が約半数、運動している人のうち、「不定期」が約半分、週2回以上があわせて3割程度となっています。
- 特に広瀬地域で運動習慣がある人が10.9%と、市全体の14.1%より少なくなっています。どの地域でも参加できる運動教室などの場が必要です。
- 運動習慣のある人の多くは一人で行っており、交流センターの体操などを利用している人は限られている状況です。また、地域ぐるみや仲間と活動している人は2割程度となっています。地域ぐるみや仲間と運動するほうが継続につながることから、みんなで取り組める環境づくりが必要です。
- 運動が生活習慣病の予防に有効なことを知っている人は9割弱を占めており、知っている人の健康状況のほうがよい傾向がうかがえます。
- 運動の種類では「散歩」などの歩くことが45.4%と最も多く、次いでストレッチが34.0%などとなっています。

【前計画の評価】

目標指標	平成22年度値	平成27年度目標値	平成27年度達成値	評価
週2回以上、1回30分以上の運動を2年以上続けている人の割合	13.5%	24.2%	14.4%	B
運動習慣として歩くことにしている人の割合	46.3%	50.9%	46.3%	C

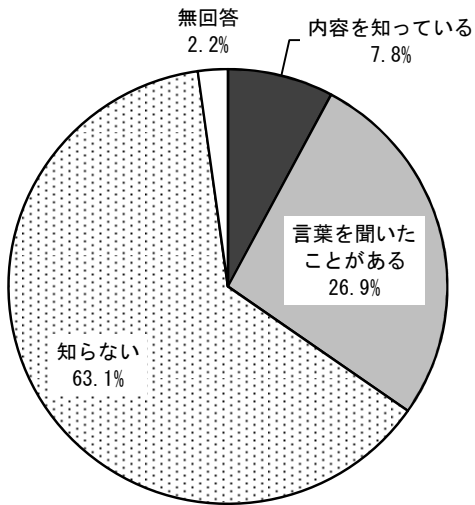
支援環境整備指標	平成22年度値	平成27年度目標値	平成27年度達成値	評価
ウォーキング大会等の場	34回	増やす	26回	D
運動に関する教室等の場(各地区運動関連調査から月1回以上定期的に実施)	44 (平成21年)	増やす	50	A

ロコモティブシンドロームとは

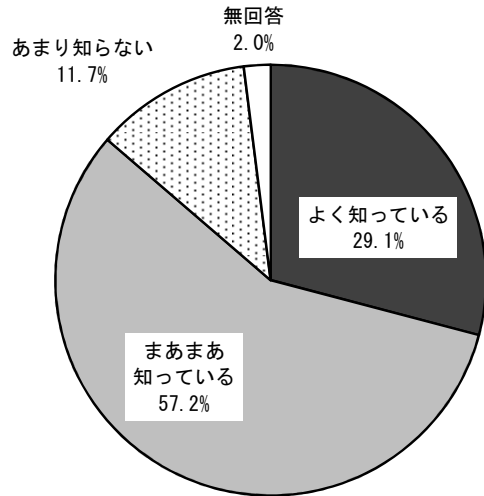
加齢による運動器の衰え・障がいのために自立度が低下し、介護が必要となる危険性の高い状態のことです。運動器症候群とも言われます。

【市民意識調査の結果から】

■ ロコモティブシンドローム(運動器症候群)について言葉や意味を知っているか
(SA) N=1,535

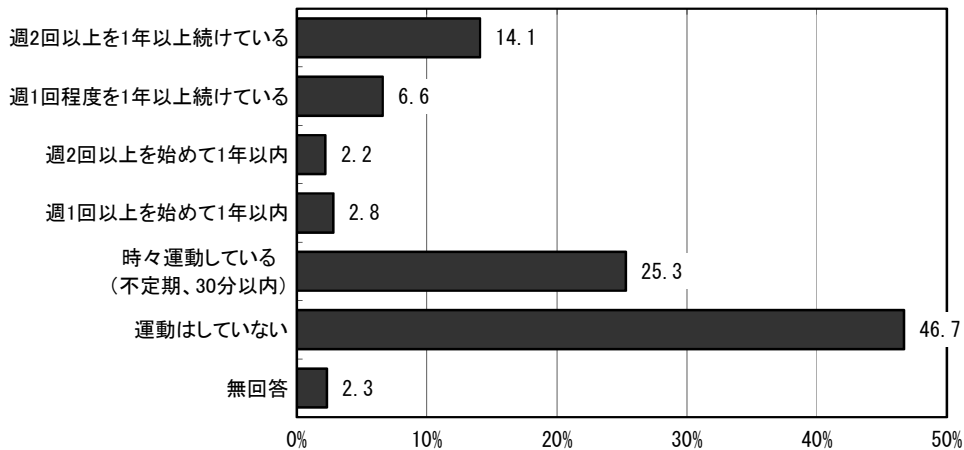


■ 「運動」をすることが生活習慣病の予防につながることを知っているか
(SA) N=1,535

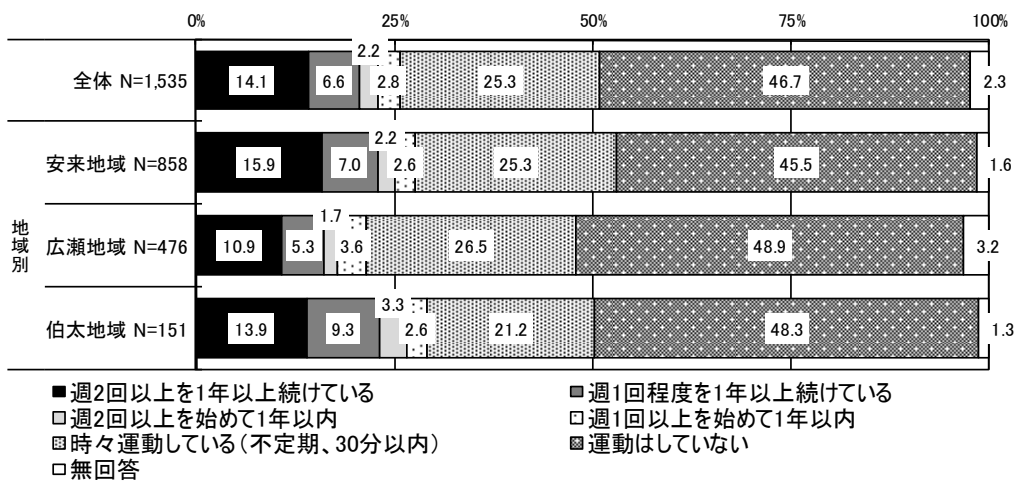


■ 意識的に運動(1回30分以上)をしているか

(SA) N=1,535

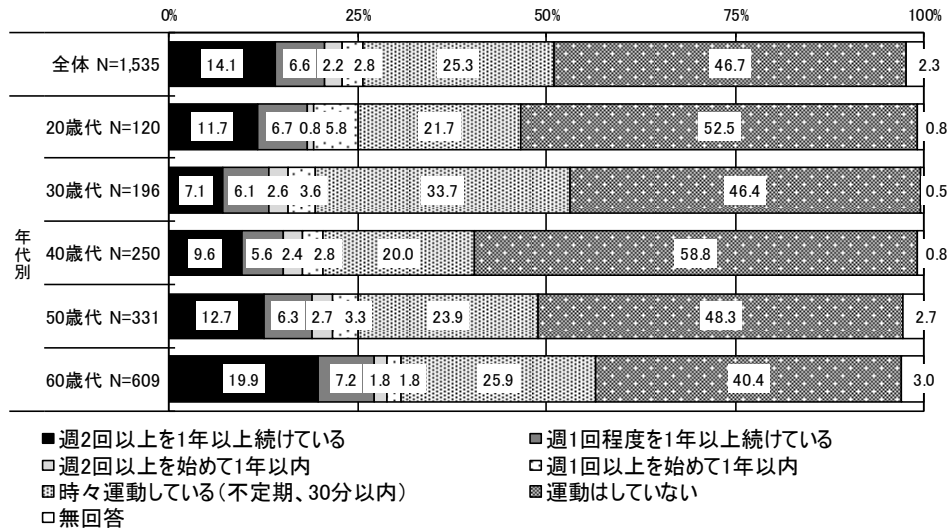


(地区別)



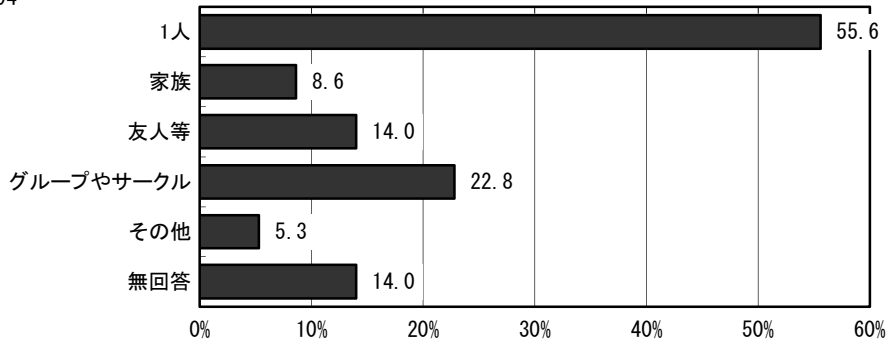


■ 意識的に運動(1回30分以上)をしているか
(年代別)



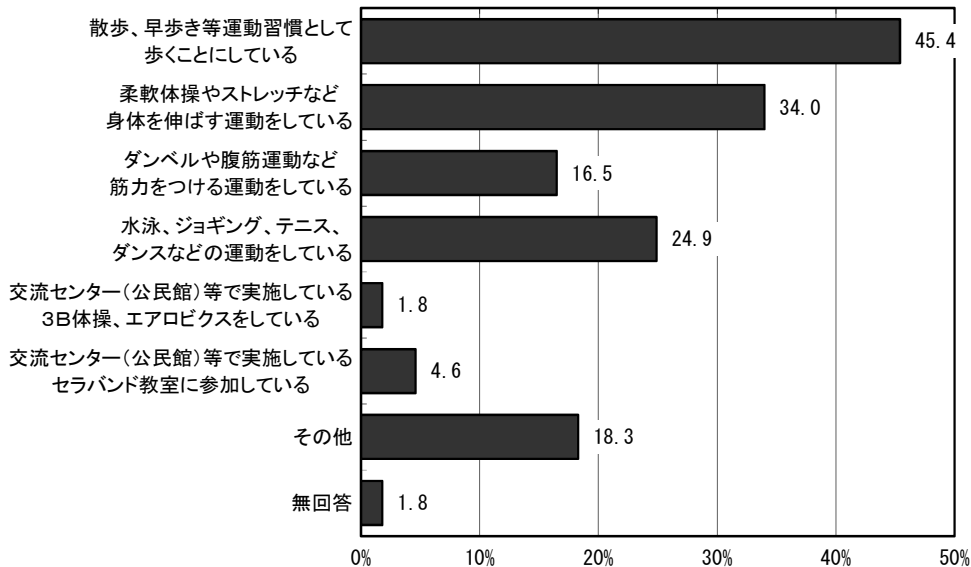
■ 運動はだれとしているか

(MA) N=394



■ どんな運動をしているか

(MA) N=394



④ 歯 歯周病を予防し、80歳で自分の歯を20本以上保とう

【現状と課題】

- 歯の健康について、歯間ブラシ・デンタルフロスを使う人は18.0%から24.6%に増加しており、定期的に歯科健診を受けている人も19.9%から26.9%に増加しています。保育施設や小学校でのフッ化物洗口は実施施設数が大きく増加し、12歳児のむし歯も1.16本から0.8本へ減少しています。
- 学校教育の場で、歯の健康についても健康教育の充実を図る必要があります。
- かかりつけ歯科医をもつ人は66.1%という結果でした。また、8020運動を知っている人は7割に満たないので、各種保健事業を通してかかりつけ歯科医を定期的に受診すること、8020運動の意味を市民に情報発信する必要があります。
- ワークショップでは健康教育として「むし歯になるのはなぜか」、「歯周病とはどのような病気なのか」ということを地域で詳しく聞くことができれば、その予防に必要なかかりつけ歯科医をもつことにつながるのでは、という意見が聞かれました。
- 歯と口の健康づくりでは「1日1回以上は丁寧に歯磨きをする」が前回同様60.6%で突出しています。一方で「特に何もしていない」人は、前回の20.3%から横ばいの18.4%と約2割程度あります。
- 子どものむし歯は減っていますが、保護者による仕上げ磨きの実施率を高めるよう、歯科保健指導の必要があります。

【前計画の評価】

目標指標	平成22年度値	平成27年度目標値	平成27年度達成値	評価
「8020運動」を知っている人の割合	63.5%	90.0%	68.3%	B
定期的(年1回以上)に歯科健診を受けている人の割合	19.9%	30.0%	26.9%	B

支援環境整備指標	平成22年度値	平成27年度目標値	平成27年度達成値	評価
フッ化物洗口実施施設の増加	(保・幼・小)29施設	42施設	40施設	B
歯と口の健康についての学習の場	地区 5 事業所等 2	増やす	地区 3 事業所 4 (平成26年)	B

8020（ハチマルニイマル）運動とは

平成元年より厚生省（当時）と日本歯科医師会が推進している「80歳になっても20本以上自分の歯を保とう」という運動です。

楽しく充実した食生活を送り続けるためには、生まれてから亡くなるまでのすべてのライフステージで健康な歯を保つことが大切であり、歯を大切にしていける生涯にわたる運動です。

かかりつけ歯科医とは

一人ひとりのライフサイクルに沿って、口と歯に関する保健・医療・福祉を提供し、地域に密着したいくつかの必要な役割を果たすことができる歯科医のことです。

かかりつけ歯科医がいる人は、要介護にもなりにくく、寿命が長いと言われています。



【安来市次世代育成支援行動計画の進捗結果から】

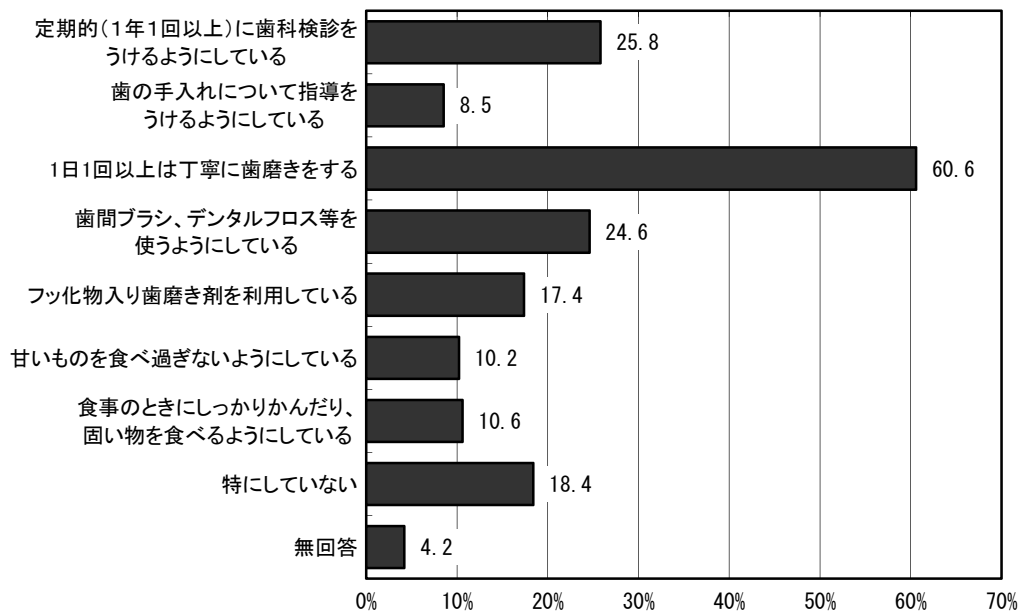
■ 子どものむし歯の状況

事業		平成20年度実績	平成26年度目標	平成25年度実績
1人平均むし歯数	1.6か月児	0.05本	なくす	0.06本
	3歳児	0.67本	0.55本	0.51本
むし歯のない幼児の割合	3歳児	76.3%	80.0%	85.1%

【市民意識調査の結果から】

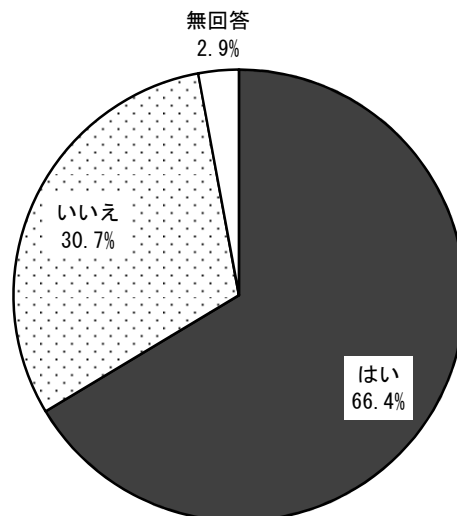
■ 歯の健康のためにしていること

(MA) N=1,535



■ 8020運動の認知度

(SA) N=1,535



⑤ ころころのやすらぎを大切に、ゆとりある生活

【現状と課題】

- 全体の4分の3程度は何らかのストレスや悩みを抱えていると回答しています。
- ワークショップにおいてもころころの問題を抱える人に対して、周囲の人は接し方がわからないなどの意見もあり、正しい知識を学ぶ場が必要です。
- ストレスや悩みを感じているのは、「職場」に続いて「家庭」が高くなっており自宅での暮らしや家族関係等に対する相談支援も重要となっています。
- 約7割の人がストレス解消法をもっていますが、酒を飲むことがストレス解消法の人で17%程度あり、ころころと体の両方に負担とならない方法への相談支援も必要となっています。
- 健康状況が悪い人ほど、ストレス解消法をもっていない傾向があります。
- 健康状態がよい人ほど、今の生活をしあわせと感じる人が多く、人生に生きがいを感じていることが分かります。
- ストレス解消法には、人とのふれあいや趣味をあげる人が多く、地域交流や生きがいづくりなどとともに、地域のみんなで互いを見守り、支援し合う体制を整えていくことが必要です。
- 自死者がゼロにはなっておらず、対策を進めていく必要があります。

【前計画の評価】

目標指標	平成22年度値	平成27年度目標値	平成27年度達成値	評価
休養が十分とれている人の割合	17.7%	19.5%	14.4%	D
睡眠が十分とれている人の割合	18.5%	20.4%	16.1%	D

支援環境整備指標	平成22年度値	平成27年度目標値	平成27年度達成値	評価
ころころの健康について学習の場	地区 2	増やす	心の健康づくり講演会等の実施 市1、地区2	A
自死予防対策推進体制の整備	—	事業実施	自死対策会議、 庁舎内連絡会議 心のいきいきキャンペーン実施 ゲートキーパー養成講座等実施	A

ゲートキーパーとは

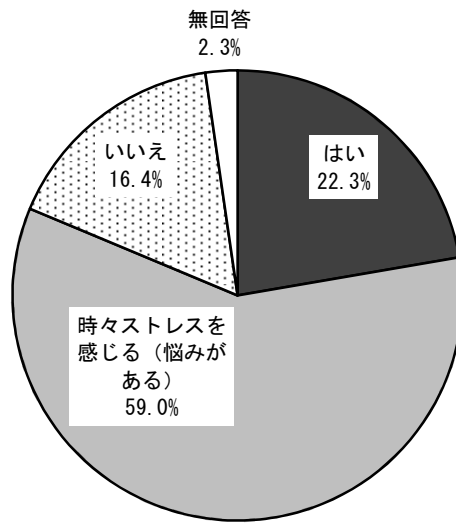
悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る人のことです。養成研修などを受けることで、だれでもなることができます。



【市民意識調査の結果から】

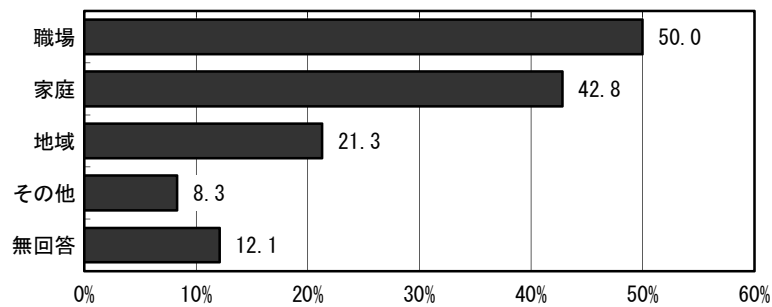
■ 日頃ストレスあるいは悩みを感じている

(SA) N=1,535

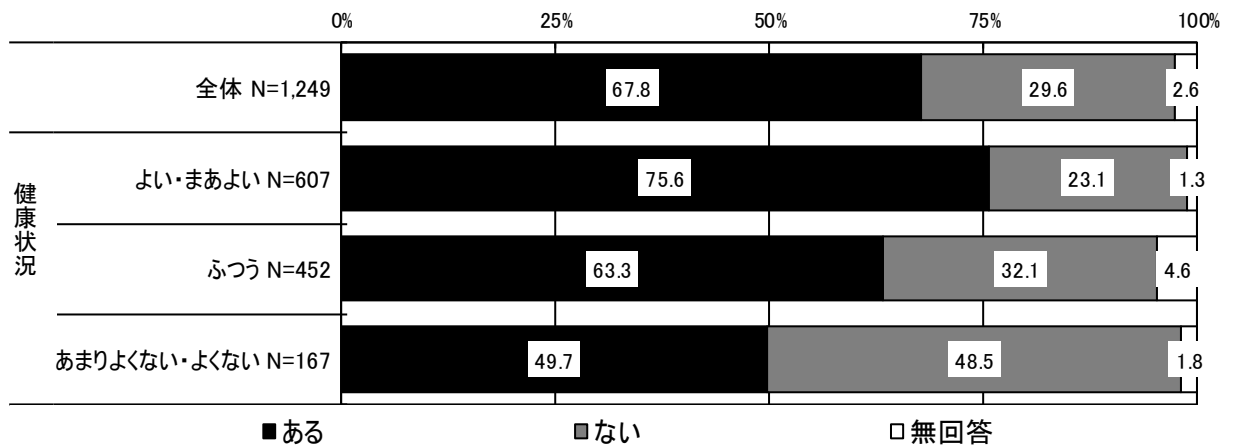


■ ストレスを感じる場所

(MA) N=1,535

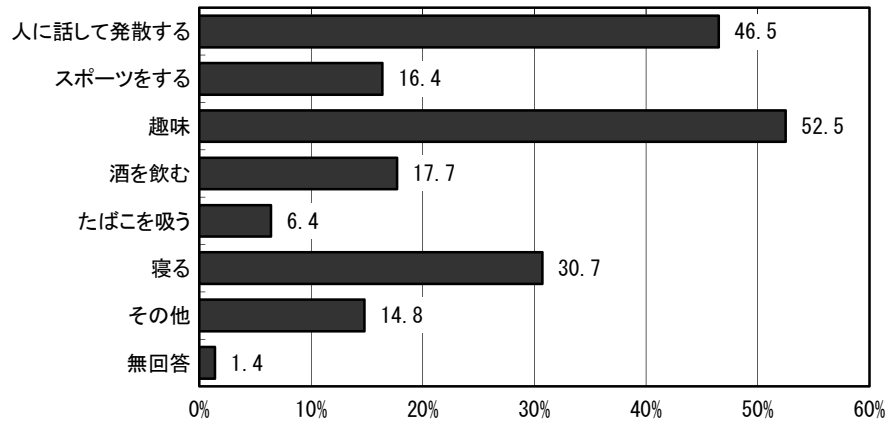


■ ストレス解消法がありますか。(健康状況別)

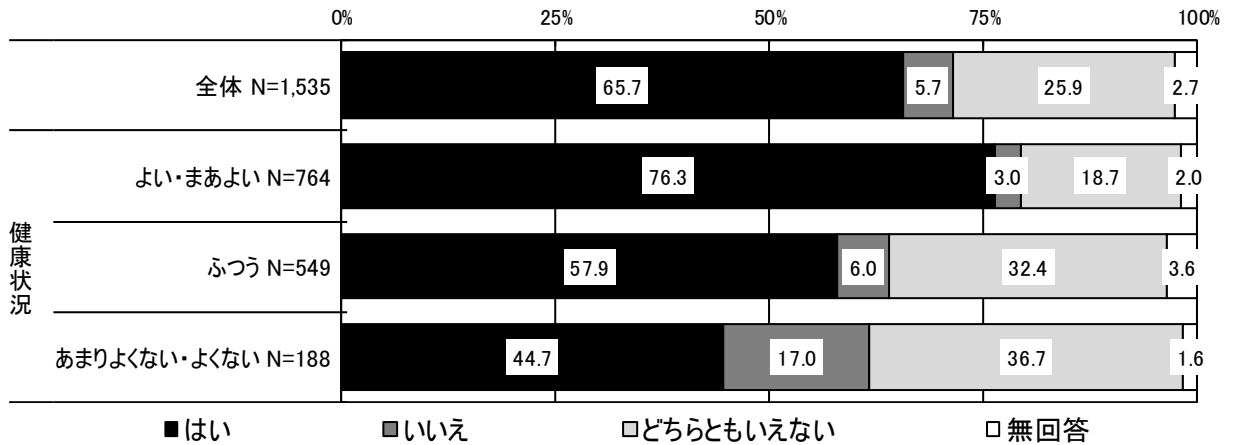


■ 具体的なストレス解消の方法

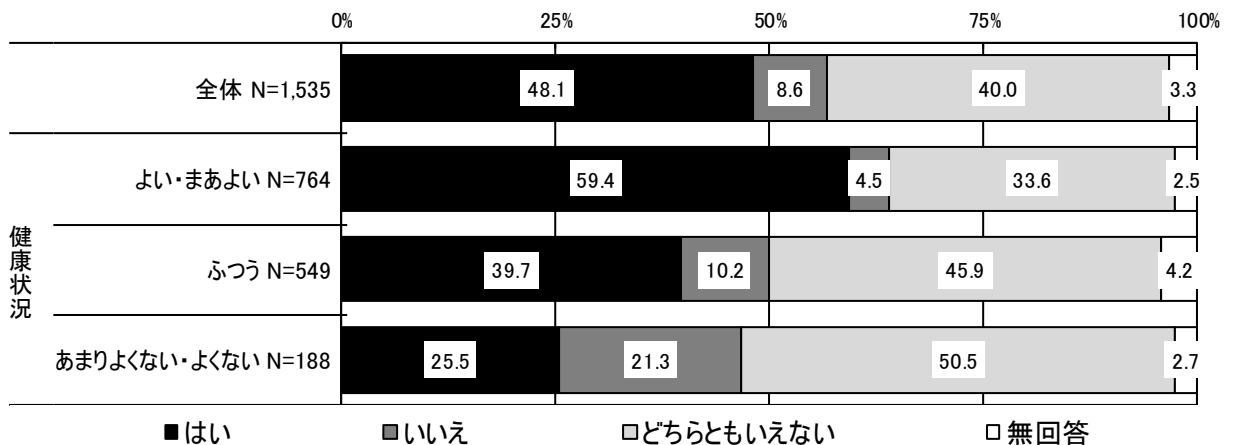
(MA) N=847



■ 全体として、あなたの今の生活は幸せであると思うか(健康状況別)



■ これからの人生に生きがいを感じるか(健康状況別)





⑥たばこ・お酒 やめようたばこ、ひかえようお酒

【現状と課題】

- たばこを吸わない人は着実に増加しており、目標に近い割合となっておりますが、妊娠中の喫煙率は増加しています。
- 飲酒に関しては、毎日お酒を飲む人は増加しており、妊娠中の飲酒率も増加しています。
- 中学生・高校生の飲酒、喫煙の割合は減少しています。
- 飲酒が主なストレスの解消法となっている人もおり、心の健康と連携した取組も必要となっております。
- お酒については「飲まない」と「やめた」を合わせて4割強の状況です。一方で飲酒する人の半数程度は毎日飲んでいる結果となっております。
- 喫煙については約8割が吸わないか禁煙しています。喫煙者のうち多くは1日1箱未満となっております。
- たばこと健康の関係では、自分の健康状態がよくないと思っている人のほうが喫煙経験割合が多くなっています。
- 若年者の喫煙は少ない傾向となっており、30歳代からの喫煙が多いことがうかがえます。
- 健康増進法に基づき、公共の場の受動喫煙対策は徐々に進んでいます。

【前計画の評価】

目標指標	平成22年度値	平成27年度目標値	平成27年度達成値	評価
たばこを吸わない人の割合	65.3%	85.0%	82.2%	B
お酒を毎日飲んでいる人の割合	24.2%	20.0%	25.3%	D

支援環境整備指標	平成22年度値	平成27年度目標値	平成27年度達成値	評価
公共施設等の施設(敷地)内禁煙 (公園、各種施設、イベント、自治会等 集いの場)	交流センター25施設 全保育所・学校敷 地内全運動施設 (体育館)	増やす	交流センター26施設 全保育所・学校敷 地内全運動施設 (体育館)	C
飲食店等の無煙環境づくり	13件	増やす	16件	C

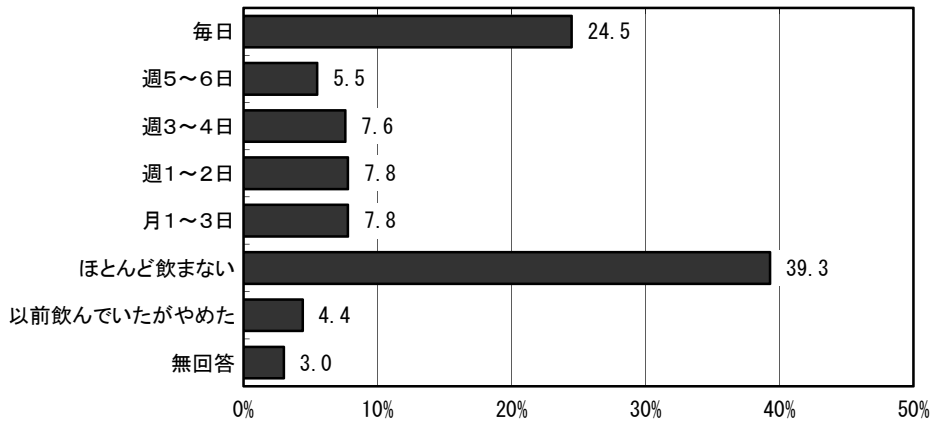
【安来市次世代育成支援行動計画の進捗結果から】

事業		平成21年度実績	平成26年度目標	平成25年度実績
妊娠中に喫煙する人の割合		0.0%	なくす	1.7%
妊娠中に飲酒する人の割合		4.3%	なくす	5.9%
未成年者の喫煙割合	中学生	5.6%	なくす	0.9%
	高校生	6.5%	なくす	0.0%
未成年者の飲酒割合	中学生	38.0%	なくす	24.5%
	高校生	47.8%	なくす	27.2%

【市民意識調査の結果から】

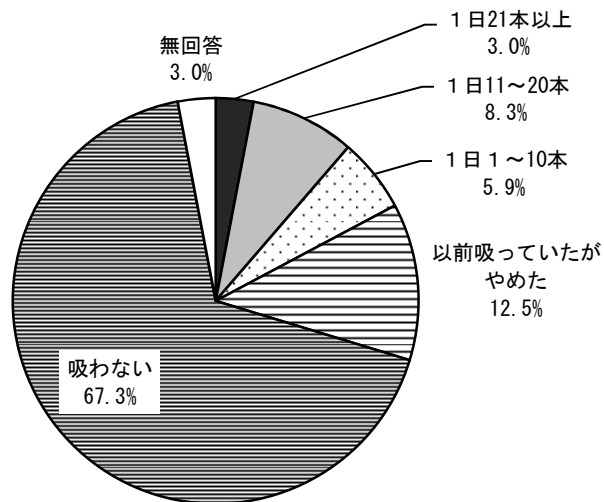
■ お酒類(アルコール)を飲む頻度

(SA) N=1,535

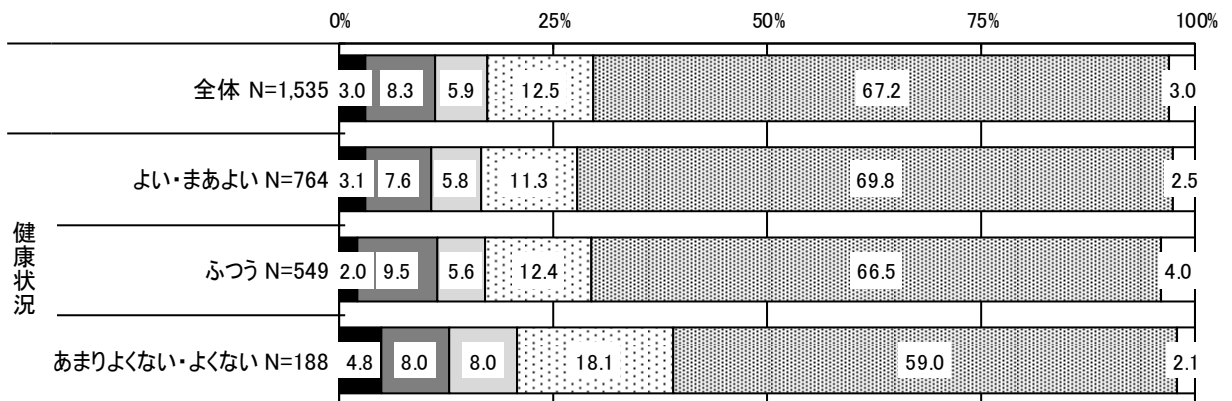


■ 1日の喫煙本数

(SA) N=1,535



(健康状況別)

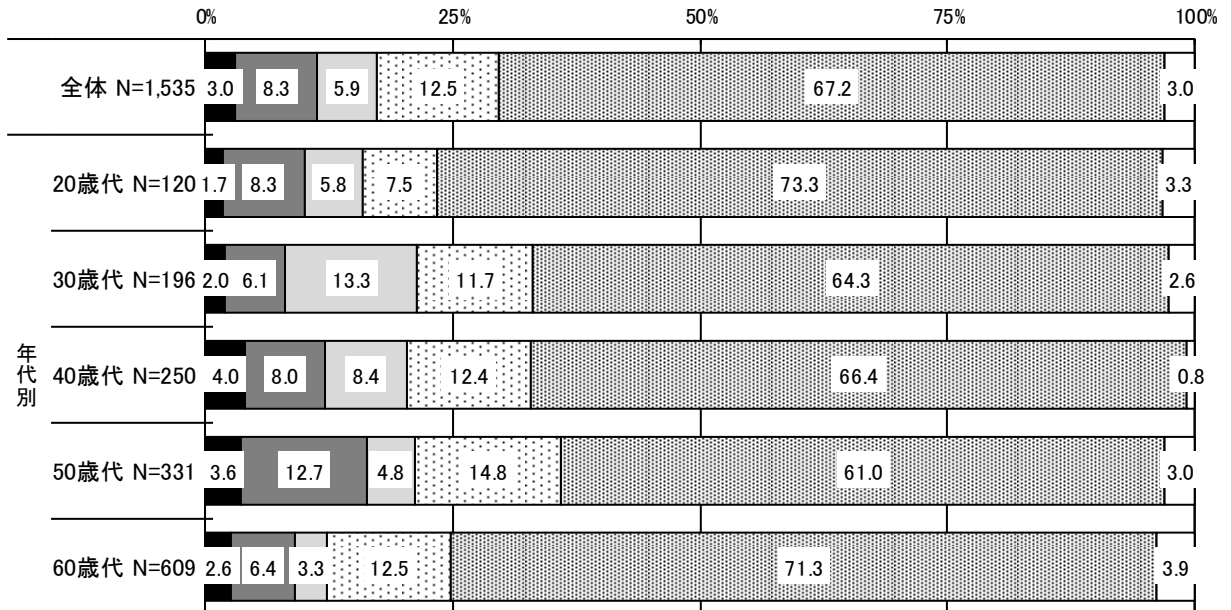


■ 1日21本以上 □ 1日11~20本 □ 1日1~10本 □ 以前吸っていたがやめた □ 吸わない □ 無回答



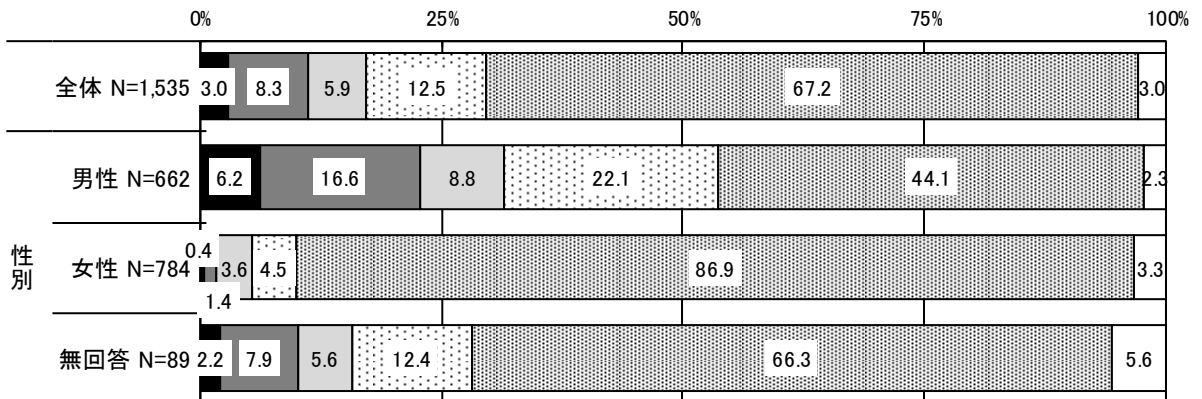
■ 1日の喫煙本数

(年代別)



■ 1日21本以上 □ 1日11~20本 □ 1日1~10本 □ 以前吸っていたがやめた □ 吸わない □ 無回答

(性別)



■ 1日21本以上 □ 1日11~20本 □ 1日1~10本 □ 以前吸っていたがやめた □ 吸わない □ 無回答

⑦健康診断 知ろう自分の身体、見直そう生活習慣

【現状と課題】

- 市民意識調査の結果では健診（検診）の受診状況については目標を達成しています。
- 市民意識調査では健康診断を受診している人が多いものの、職域保健による受診と考えられ、今後、全国健康保険協会（協会けんぽ）などとの連携により実態を把握していく必要があります。
- 市の実施する健診（検診）は受診人数が減少傾向となっており、受診しやすい仕組みづくりとともに、受診勧奨を行い、健診（検診）の意義を周知していくことが必要です。
- 結核・肺がん検診（胸部レントゲン検診）においては61.5%が毎年受診しています。
- 受診していない人の理由は多い順から「面倒だから」、「忙しいから」、「費用が高いから」となっています。
- 特定（基本）健診・職場健診等では「毎年受診している」が75.7%を占めています。

【前計画の評価】

目標指標	平成22年度値	平成27年度目標値	平成27年度達成値	評価
特定健康診査・職場健康診断を毎年受けている人	68.1%	73.1%	75.7%※	A
胃がん検診を毎年受けている人	28.3%	35.1%	35.8%※	A
肺がん・結核検診を毎年受けている人	53.1%	56.6%	61.5%※	A
大腸がん検診を毎年受けている人	23.3%	30.0%	34.2%※	A
乳がん検診を毎年あるいは2年に1回受けている人	30.6%	40.0%	38.6%※	B
子宮がん検診を毎年あるいは2年に1回受けている人	38.3%	45.0%	49.7%※	A
がん検診の精密検査を受けている人	73.0%	100%	88.0%※ ² (平成26年)	B

※ 市民意識調査結果。実際の健診（検診）受診率とは異なる。

※2 がん検診の精密検査を受けている人は、結果報告のあった実際値。

子宮がん検診は、HPV検査も同時に行い、両方異常がなかった場合、次回受診は3年後となるため平成21年度の指標は毎年あるいは2年に1回、平成27年度は毎年～3年に1回となる

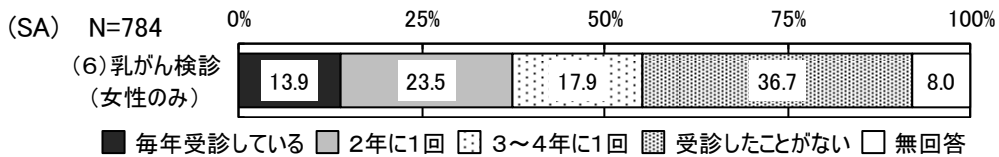
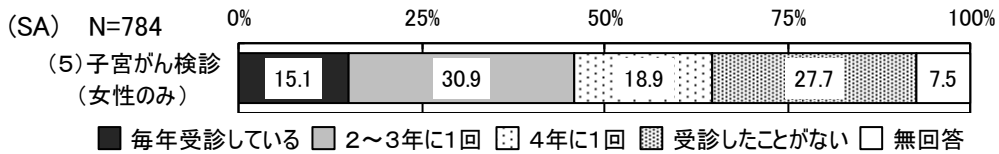
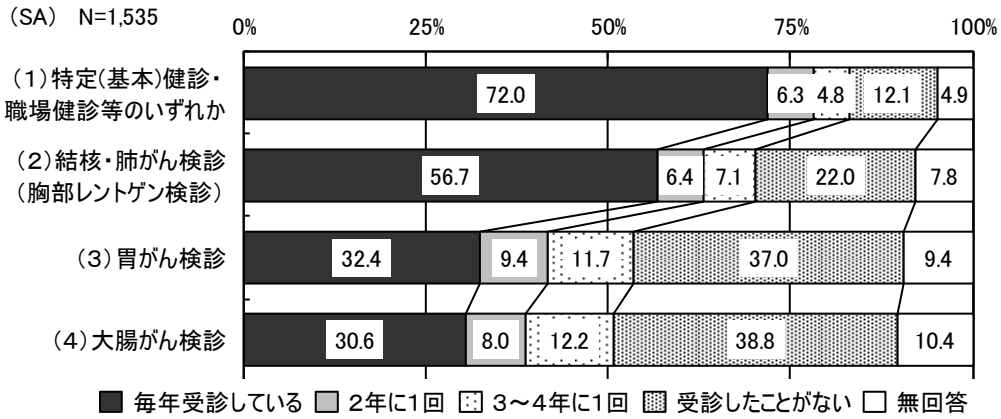
目標指標	平成22年度値	平成27年度目標値	平成26年度達成値	評価
胃がん検診を受けている人	1,094人	1,480人	904人	D
肺がん検診を受けている人	1,070人	1,630人	960人	D
大腸がん検診を受けている人	1,967人	2,070人	1,945人	D
乳がん検診を受けている人	890人	940人	957人	A
子宮がん検診を受けている人	897人	940人	818人	D

40歳以上(子宮がん検診は20歳以上)の全年齢の受診者数。「がん対策推進基本計画」(平成24年6月)に基づく対象者(40歳から69歳(子宮頸がんは20歳から69歳)まで)とは異なる。



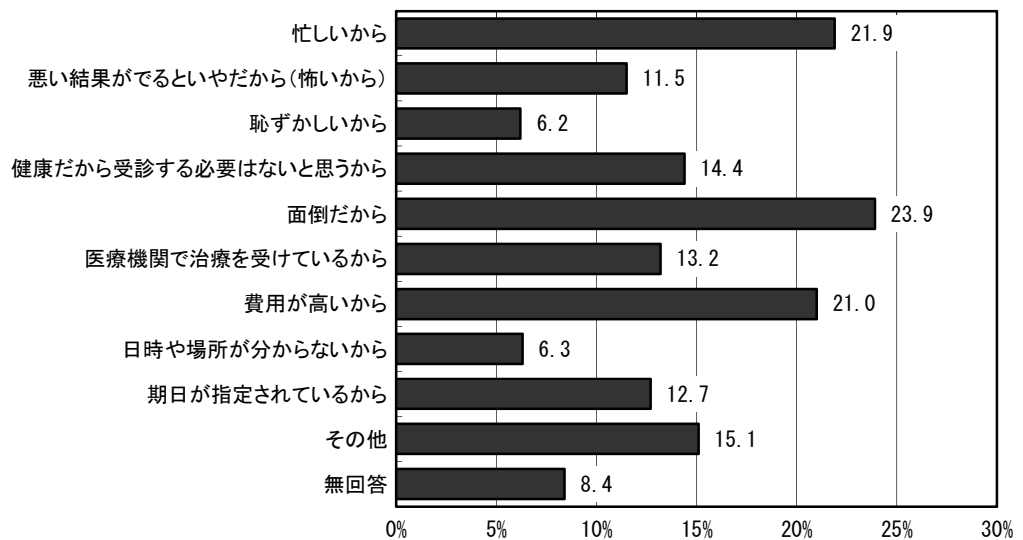
【市民意識調査の結果から】

■ 健診(検診)の受診状況



■ 健診(検診)を受診しない理由

(MA) N=964



【実績の推移】

ア. 特定健康診査・特定保健指導の状況

- 特定健康診査の受診率は平成26年度で37.4%となっており、近年では微増傾向となっておりますが、大きな変動はなく推移しています。
- 特定保健指導の利用率は平成26年度には14.5%となっており、平成24年度に上昇してからは緩やかな減少傾向となっております。

■ 特定健康診査の実施状況(人)

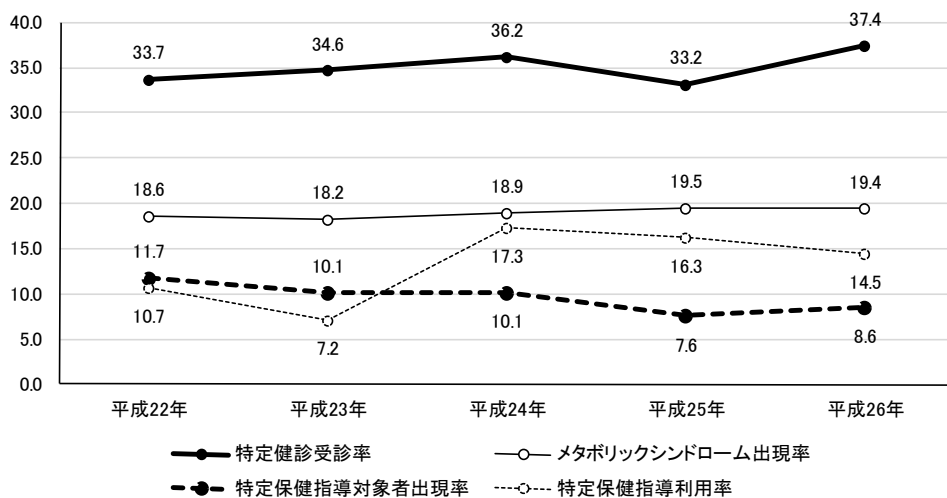
	対象者数	受診者数	特定健診 受診率	メタボリックシンドローム判定			
				基準 該当者	予備群 該当者	非該当者	判定不能
平成22年	8,511	2,869	33.7%	533	336	1,996	4
平成23年	8,405	2,912	34.6%	530	345	2,030	7
平成24年	8,218	2,972	36.2%	561	345	1,962	4
平成25年	8,084	2,680	33.2%	523	292	1,861	4
平成26年	7,991	2,987	37.4%	579	327	2,079	2

※対象者数には、年度途中の新規加入者、及び資格喪失者を含みます。

■ 特定保健指導の実施状況(人)

	特定保健指導該当者			特定保健指導初回利用者			特定保健指 導利用率
	動機付け支援	積極的支援	計	動機付け支援	積極的支援	計	
平成22年	240	96	336	27	9	36	10.7%
平成23年	237	56	293	19	2	21	7.2%
平成24年	252	49	301	49	3	52	17.3%
平成25年	164	39	203	27	6	33	16.3%
平成26年	201	55	256	28	9	37	14.5%

■ 特定健康診査・特定保健指導の実施状況(%)

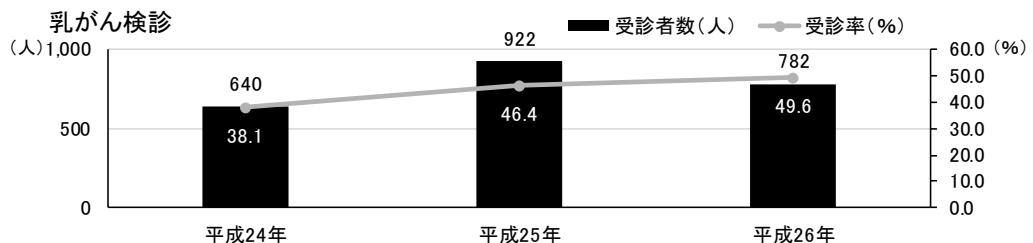
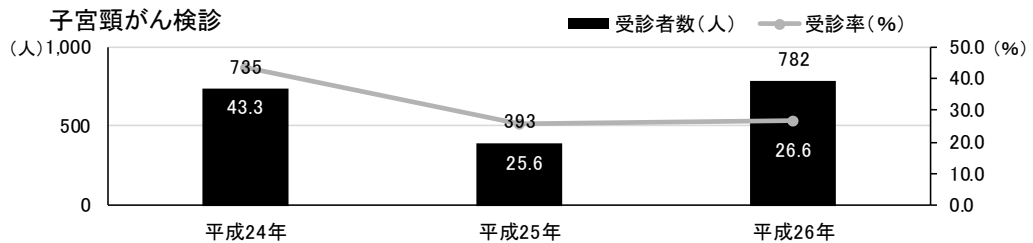
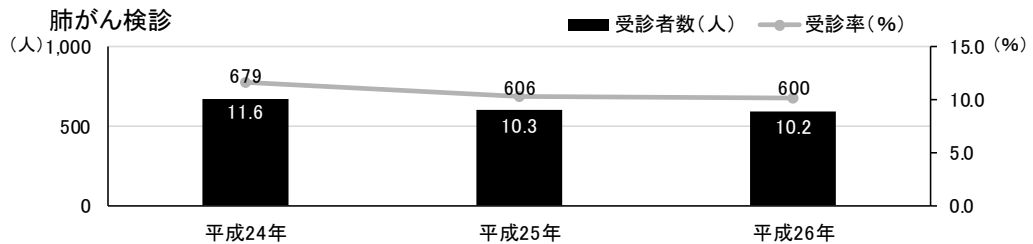
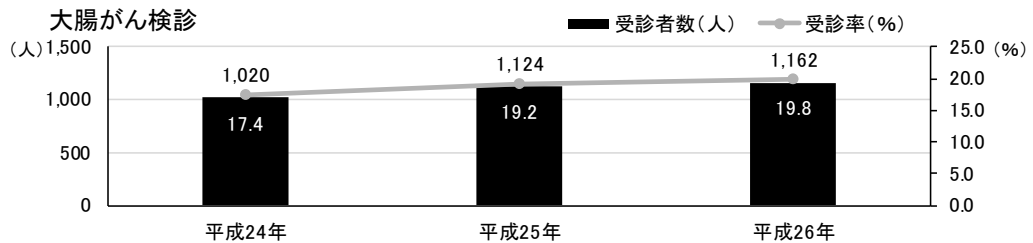
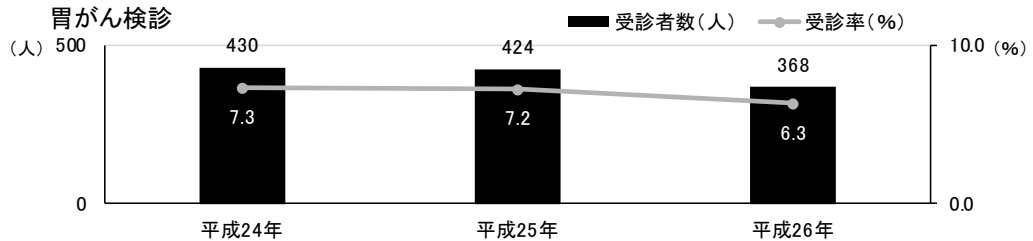




イ. がん検診の状況

- がん検診の受診状況を見ると、概ね横ばいか減少傾向となっています。
- がんによる死亡は本市の死亡要因の中でも高くなっており、早期発見、早期治療につなげることが引き続き重要です。

■ がん検診の受診人数と受診率



- がん検診受診率はがん対策推進基本計画(平成24年6月)に基づき40～69歳(子宮頸がん検診は20～69歳)を対象として算定する。
- 内視鏡検診(胃カメラ)は含まない。
- 乳がん・子宮頸がん検診受診率=(「前年度の受診者数」+「当該年度の受診者数」-「前年度及び当該年度における2年連続受診者数」)÷「当該年度の対象者数」×100

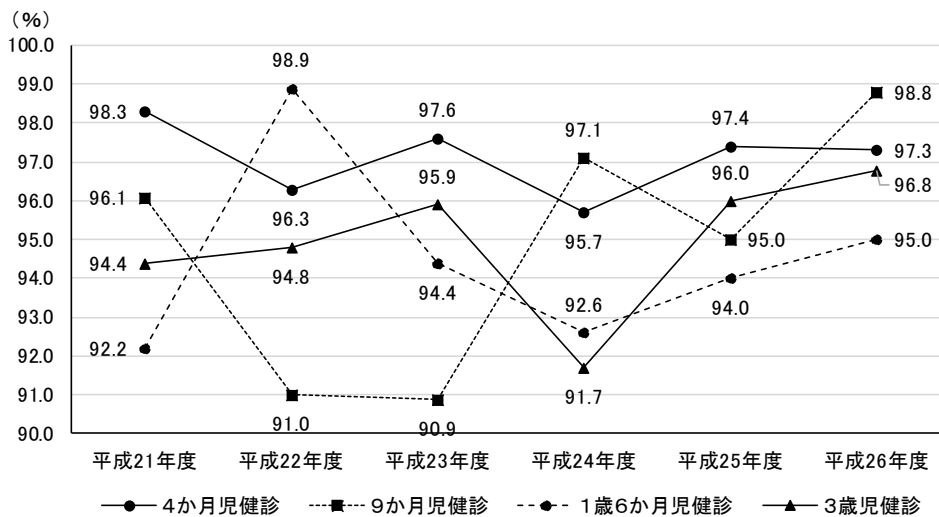
⑧親子の健康

【現状と課題】

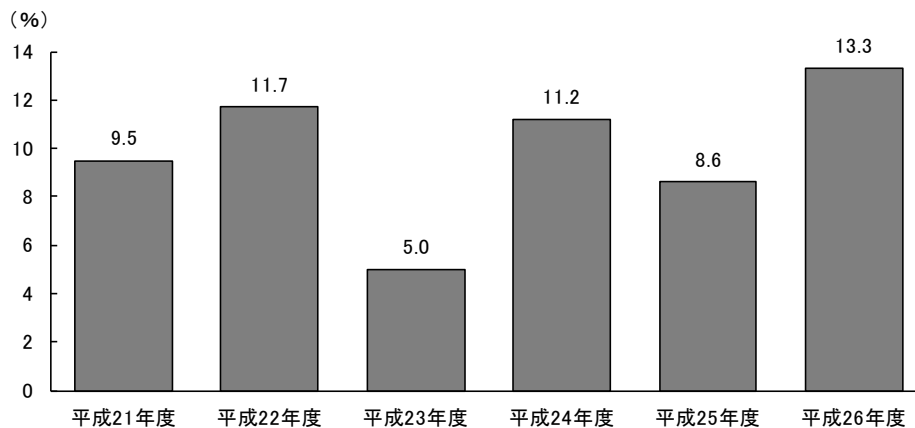
- 乳幼児健診の受診状況を見ると、平成26年度で受診率97%を超えていた健診は、9か月児健診及び4か月児健診となっています。
- いずれの健診においても受診率が90%を下回る年はなく、この数年での受診率は上昇傾向にあります。
- 低出生体重児の状況を見ると、近年では10%を超える年が多くなっており、平成26年度では13.3%でした。
- 幼児の生活リズムについて、早起きの状況では県平均と比較して7時までに起床する割合が低くなっており、早寝の状況においても21時までに寝る割合は低くなっています。また、3歳児では夜9時までに就寝する子どもが1割未満となっており、親の生活リズムに合わせて起きている子どもが多いことがうかがえます。

【実績の推移】

■ 乳幼児健診の受診状況



■ 低出生体重児(出生時体重2,500g未満)の割合

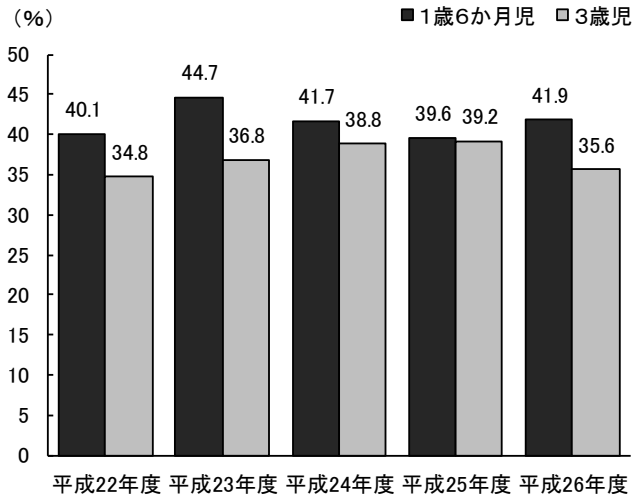




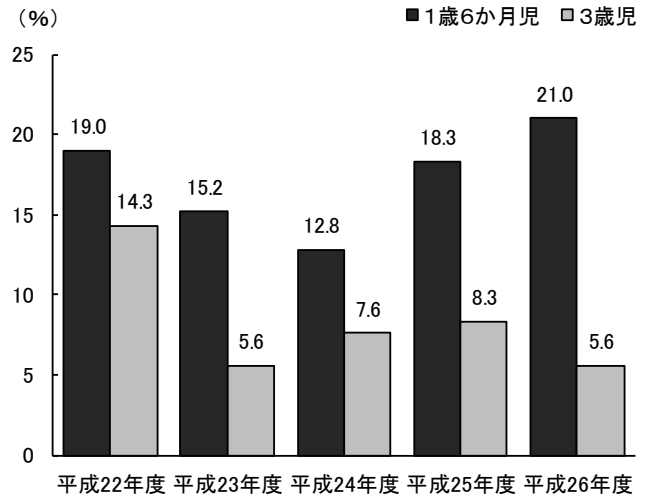
■ 起床時間、就寝時間の状況

【経年変化】

(7時までに起床する幼児の割合)

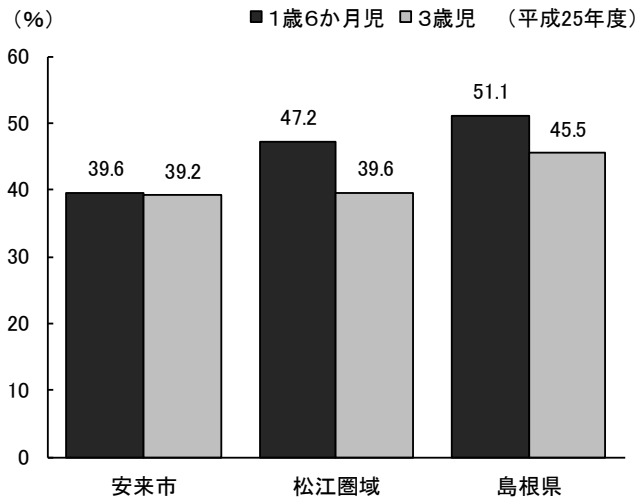


(21時までに就寝する幼児の割合)

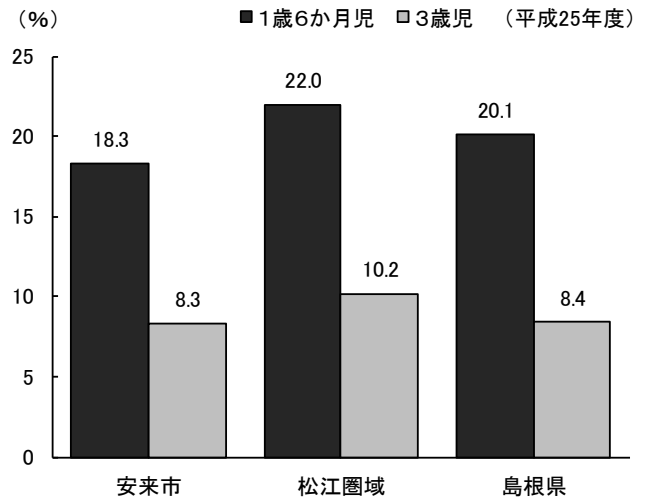


【県・圏域との比較】

(7時までに起床する幼児の割合)



(21時までに就寝する幼児の割合)



(2) 安来市食育推進計画の評価と課題

計画策定時に設定された事業の取組を中心とした目標について、設定時の値と直近の値を比較するとともに、目標に対する達成状況について、以下の通り分析・評価を行いました。

49項目中、35項目で事業が従来通り、又は充実して実施されていました。

A	改善、充実して実施できている取組
B	従来通りに実施できている取組
C	内容が後退したものの、継続ができているもの
D	取り組めていないもの
E	制度や実状が変化し、評価が困難なもの

①食育推進運動の展開

【現状と課題】

- 食育月間や食育の日のキャンペーンについては取り組めていません。現在も市民に対しどのような普及・啓発ができるか検討を重ねており、安来市らしい取組ができるよう努めています。
- 地産地消については継続的に実施しています。

■ 食育月間の周知やイベントの取組

事業	平成22年度値	平成27年度目標	平成26年度達成状況	評価
「食育月間」「食育の日」キャンペーンの実施	—	実施	未実施	D
地産地消推進事業 (安来農林振興協議会)	実施	実施	実施	B

②ライフステージによる展開

A. 就学前における食育の推進

【現状と課題】

- 妊婦歯科健診の受診率は、年々増加しており、子どもの歯の健康に対する保護者の意識も高くなっています。
- 保育所（園）・幼稚園では、食育の関心を高めるための啓発や、参観日にあわせた試食会の実施などに取り組んでいますが、食に対して保護者の関心度には差があります。
- 菜園活動・クッキングなど、保育所（園）等での体験を家庭へとつなげるため、保護者への意識啓発に取り組むことが重要です。
- 食事のマナーは家庭との連携が必要となっています。
- 小・中学校と連携して、朝食を欠食する子どもへの対策に取り組んでいくことが必要です。



■ 正しい食習慣の基礎を習得

事業	平成22年度値	平成27年度目標	平成26年度達成状況	評価
乳幼児健康診査	実施	実施	実施	B
子育て支援センタープレイルームイベントでの「食育」に関する事業の展開	実施(6講座)	実施(8講座)	実施(2講座)	C

■ 妊娠期からの歯と口の健康づくり普及・啓発

事業	平成22年度値	平成27年度目標	平成26年度達成状況	評価
妊婦歯科健診	実施 (受診率44%)	実施	実施 (受診率53.3%)	A
乳幼児健康診査時ブラッシング指導	実施	実施	実施	B
かみかみ教室	—	実施	実施	B
保育施設での歯科衛生士によるブラッシング指導	19保育所(園)	20保育所(園)	19保育所(園)	B
保育施設でのフッ化物洗口	18保育所(園) (322人)	20保育所(園)	20保育所(園)	A

■ 妊産婦・乳幼児に関する栄養や生活習慣の指導

事業	平成22年度値	平成27年度目標	平成26年度達成状況	評価
マタニティ教室の実施	実施マタニティ教室 前期_年3回 後期_年3回	実施マタニティ教室 前期_年4回 後期_年4回	実施マタニティ教室 後期_年4回 教室再編により妊娠後期の教室のみ実施	C
「妊産婦のための食生活指針」の普及・啓発	実施	実施	実施	B
離乳食教室の実施	年24回	年24回	年26回	A
子育て総合相談窓口	実施	実施	実施	B

■ 保育所(園)・幼稚園における食育の推進

事業	平成22年度値	平成27年度目標	平成26年度達成状況	評価
家庭での食育の関心への啓発	実施	実施	実施	B
保育参観日に試食会の実施	実施	実施	実施	B
菜園活動・クッキング	実施	実施	実施	B
食文化との出会い	実施	実施	実施	B

イ. 学校等の食育の推進

【現状と課題】

- 学校等での食育については、各学校の目標にも掲げ、計画的に実施しています。
- 歯科教室については一部実施できていない学校もありますが、全学年の実施に向けて学校歯科医の協力や保健教育の中での取組を充実していく必要があります。
- 学校給食における取組では、各校の状況に応じて実施しており、概ね計画通り進んでいます。

■ 学校等での食育に関する学習の推進

事業	平成22年度値	平成27年度目標	平成26年度達成状況	評価
栄養バランスの良い朝食摂取の推進	実施	実施	実施	A
学校での食に関する相談の実施	—	実施	実施	A
生活習慣の意識づけの推進	実施(一部学校)	実施(全学校)	実施(全学校)	A
食に関するマナーや調理技術の向上を図る	—	実施	実施	A
歯科検診の結果を基に歯科教室の充実を図る	実施 (一部学校・一部学年)	実施 (全学校・全学年)	実施 (一部学校・一部学年)	B

■ 学校給食における食育の取組

事業	平成22年度値	平成27年度目標	平成26年度達成状況	評価	
地域ブランドとしての「やすぎどじょう」の活用	実施 (一部学校)	実施 (全学校)	実施 (全学校)	A	
学校給食における地場産物使用の充実	児童生徒の食への関心と理解を深めるよう指導する	実施	実施	B	
	地域生産者から学校給食へ食材が計画的に仕入れできる体制づくり	—	実施	実施 (各校ごと)	B
全小学校・伯太中学校ごとの特色をいかし、きめ細やかな指導ができる学校給食の実施	学校ごとに、ゆきとどいた献立を通じて児童生徒に食育を指導する	実施	実施	実施	A
	バイキング方式・カフェテリア方式などを取り入れ、食品を選択することを指導する	実施 (一部・年数回)	実施 (全学校・年数回)	実施 (全学校・年数回)	A
学校給食に米飯を取り入れ安来市産米の良さを指導	全小学校・伯太中学校における学校給食で米飯給食を実施して日本の食文化について指導する	実施 週3回	実施 週4回以上	実施 (各校ごとに回数は異なる)	B
	米飯給食の日には、「いりこ」などの献立を取り入れ、カルシウム摂取と硬いものを食べる効果について指導する	実施 (一部学校)	実施 (全学校)	実施 (全学校)	A
学校給食の試食会・給食参観の実施	実施 (一部学年)	実施 (全学年)	実施 (全学校)	A	



ウ. 成人・高齢者の食育の推進

【現状と課題】

- 施策の実施はできているものの、回数や内容的に現状維持や後退しているものも見られます。
- 地域に高齢者が増加する中、高齢者の食や健康は大きな課題であり、今後とも全市をあげた取組が必要です。
- 介護予防事業については平成29年度までに市の独自事業として多様な主体の参入が望まれており、新たな仕組みづくりを進めています。
- 口腔機能向上支援事業（一次予防事業）については、ミニサロン等実施団体が減少及び固定化の傾向があります。各自治会等を中心にミニサロン等の新規実施に向けた取組を行う必要があります。
- 口腔機能向上支援事業（二次予防事業）については、年々参加希望者が減少し、医療機関受診につながらない傾向があります。平成27年度より始まった後期高齢者歯科口腔健診と連携し、受診者の保健指導も含めた介護予防事業を展開していく必要があります。

■ 適切な生活習慣への取組

事業	平成22年度値	平成27年度目標	平成26年度達成状況	評価
栄養相談事業	実施	実施	実施	B
食習慣の改善に向けた健康教室	実施	実施	実施	B

■ 定期的な健診受診に向けた取組

事業	平成22年度値	平成27年度目標	平成26年度達成状況	評価
健康診査受診促進事業	実施 (受診率33.7%)	実施 (平成29年度国保特定 健診受診率65%)	実施 (受診率37.4%)	C

■ 歯・口の健康と食育の推進

事業	平成22年度値	平成27年度目標	平成26年度達成状況	評価
歯はいのち講座	実施	実施	実施	A

■ 介護予防の取組*

事業	平成22年度値	平成27年度目標	平成26年度達成状況	評価
(一次予防事業) 口腔機能向上支援事業	実施	実施	実施	C
(一次予防事業) 栄養改善ボランティア育成事業	実施	実施	事業見直しにより実施せず	E
(二次予防事業) 口腔機能向上支援事業	実施	実施	実施	C
(二次予防事業) 低栄養改善事業	実施	実施	事業見直しにより実施せず	E

※制度改正により、今後、介護予防事業は新しい地域支援事業として実施方法が変更される予定です。

③地産地消・食文化の継承活動の推進

【現状と課題】

- 概ね計画通り実施しています。今後は、学校だけではなく、成人を対象とした体験の場の提供や食文化の継承の取組、産業・観光資源としての活用を進めていくなど、取組を展開する必要があります。
- 平成28年度の給食センターの稼働とともに、食に関する研修や講演が行える設備が整備され、多様な取組ができるものと期待されています。
- 稲作の体験や野菜作りなど農業体験は全学校で実施されていますが、林業体験はごく一部の小学校にとどまり、漁業体験は実施できていない状況です。

■ 農業・漁業・林業とふれあう活動の推進

事業	平成22年度値	平成27年度目標	平成26年度達成状況	評価
農林漁業体験の実施	実施 (一部学校)	実施 (全学校)	実施 (全学校)	A

■ 地産地消の推進

事業	平成22年度値	平成27年度目標	平成26年度達成状況	評価
地産地消推進事業 (安来農林振興協議会)	実施	実施	実施	B
地産地消について理解を深める 学習の展開	実施(一部学校) 小学校_2校 中学校_2校	実施(一部学校) 小学校_6校 中学校_3校	実施 小学校_8校 中学校_4校	A
地産地消について体験や学習を 通じた情報提供	—	実施	実施	A

■ 伝統あるすぐれた食文化を継承する取組

事業	平成22年度値	平成27年度目標	平成26年度達成状況	評価
学校で安来市の各地域の伝統 料理の情報提供	—	実施 (給食については 給食実施教育機関)	実施	A



④食の安全についての情報提供

【現状と課題】

- 近年では輸入食品の安全性や食中毒などのニュースが絶えず、食の安全に対する関心は高くなっています。
- 食の安全については継続的な取組ができていますが、「食の安心・安全に関する情報」については未実施となっています。情報の提供方法等、関係機関・団体と検討を重ねており、早期の実施を目指します。

■ 食品の安全性や栄養等に関する情報提供

事業	平成22年度値	平成27年度目標	平成26年度達成状況	評価
食の安心・安全に関する情報を提供	—	実施	未実施	D
健康づくり応援店 (外食栄養成分表示店)	実施 (21件)	実施	実施 (20件)	C
乳幼児健康診査での食の安心・安全の普及	実施	実施	実施	B
離乳食教室で 食の安心・安全の普及	年24回	年24回	年27回	A

■ 安心・安全な学校給食の促進

事業	平成22年度値	平成27年度目標	平成26年度達成状況	評価
食品表示の活用	実施	実施	実施	B

■ アレルギーに対する就学までの家庭支援

事業	平成22年度値	平成27年度目標	平成26年度達成状況	評価
アレルギー疾患診断書(指示書)の提出	実施	実施	実施	B

⑤食育についての意識

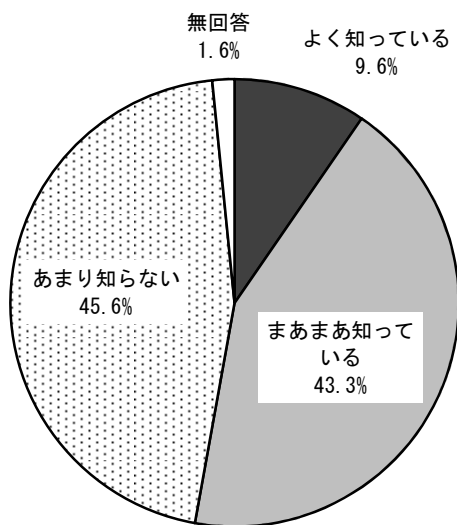
【現状と課題】

- 食育について「あまり知らない」が約半数あるものの、食育に関心がある人も半数以上となっています。また、関心については「どちらともいえない」が26.7%となっており、アプローチしだいで関心がある人を増やせる可能性があります。
- 食事バランスガイドについては3分の1が「知らない」と回答しており、目にする機会が少ないことがうかがえます。
- 地産地消については多くが知っているか聞いたことがあり、関心を実践につなげていくことが必要となります。
- 正しい食事の基本となる朝食については、毎日食べていない人が約15%あります。年代別では若い人に朝食を食べていない人が多い傾向があるため、特に若い世代に対する取組が必要です。
- 食品を選ぶ知識や調理法については半数弱が自信がない状態であり、また、農林漁業体験をしたことのない人も同様となっており、食育について知っている人の割合と類似しています。
- 地元の農林水産物は約8割が何らかのものを知っており、いちごやなしなどの果実類が上位を占めているほか、「あすっこ」などの新しい特産品についても1割程度の認知があります。
- 郷土料理については3割弱が知っており、知らない人が5割強と多くなっています。内訳では「どじょう料理」が突出して高くなっており、安来節と絡めて郷土の特徴として捉えているほか、給食などを通して、子どもが触れる機会も増え、あらゆる世代に浸透していると考えられます。

【市民意識調査の結果から】

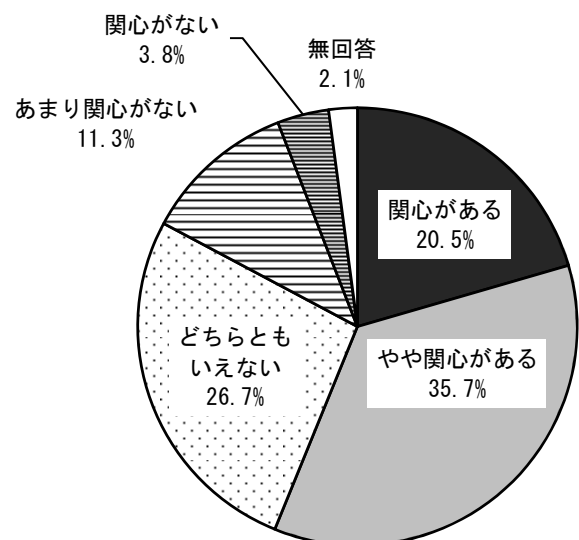
■ 食育について知っているか

(SA) N=1,535



■ 食育に関心があるか

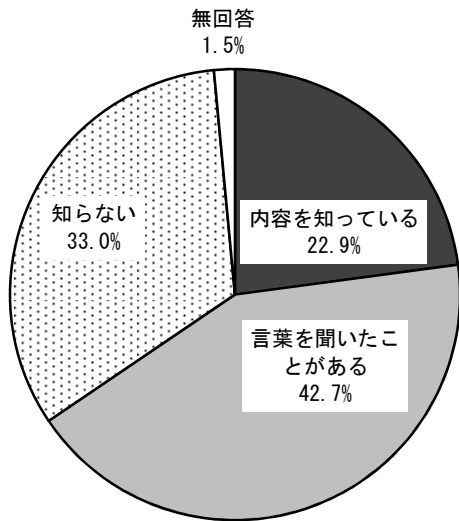
(SA) N=1,535





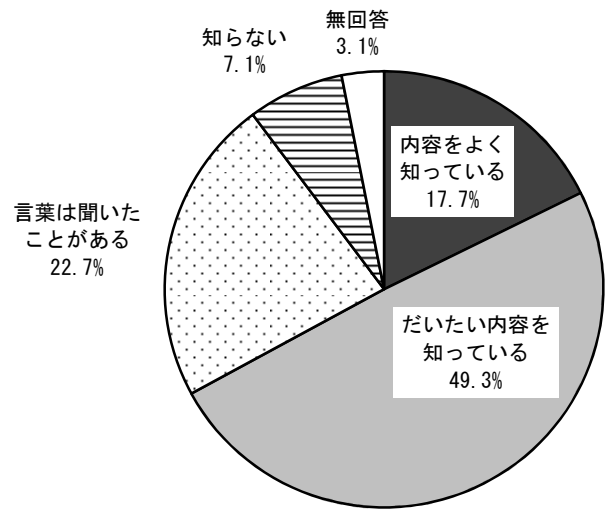
■ 食事バランスガイドを知っているか

(SA) N=1,535



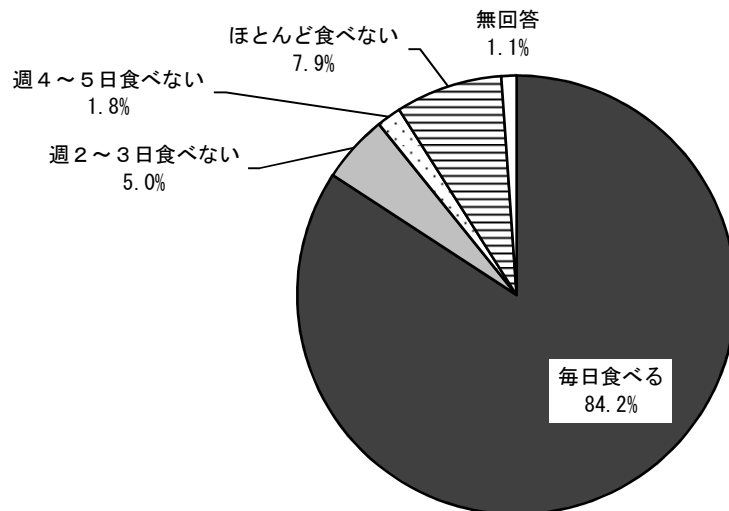
■ 「地産地消」について知っているか

(SA) N=1,535



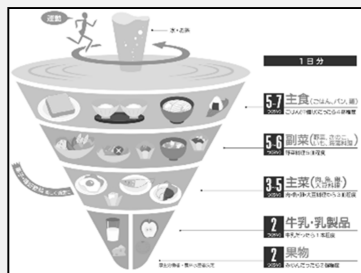
■ 朝食を食べるか

(SA) N=1,535



食事バランスガイドとは

1日に、「何を」、「どれだけ」食べたらよいかを考える際の参考にしていただけるよう、食事の望ましい組み合わせとおおよその量をイラストでわかりやすく示したものです。

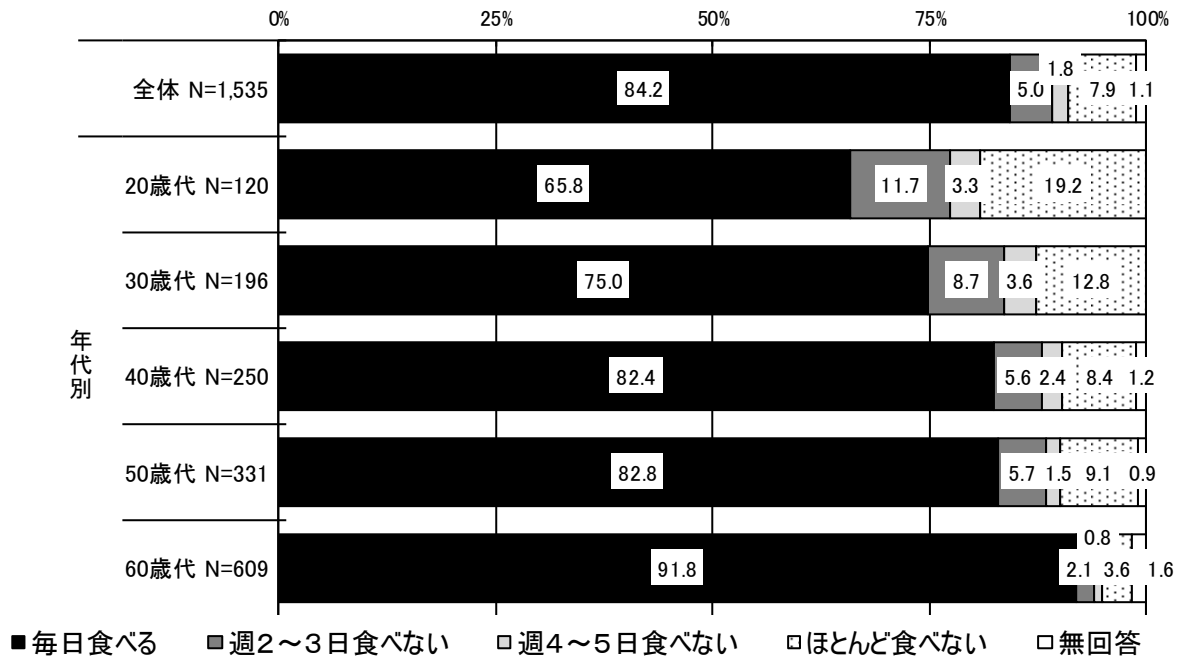


地産地消とは

地産地消とは、国内の地域で生産された農林水産物を、その生産された地域内において消費する取組です。食料自給率の向上に加え、直売所や加工の取組などを通じて、6次産業化にもつながるものです。

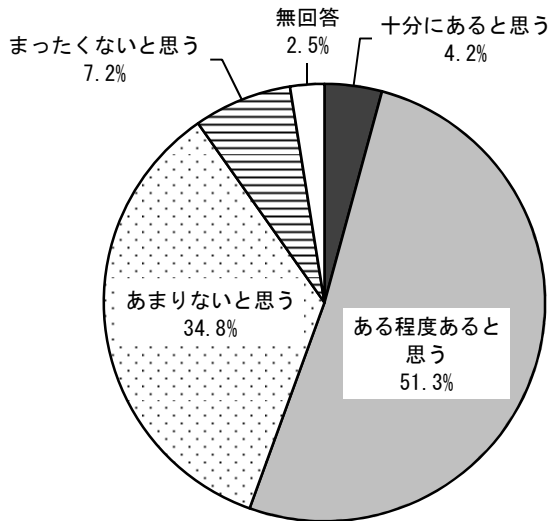
本市では、学校給食に地元食材を中心とした県内産の品を取り入れるなど、地産地消の取組も進めています。

■ 朝食を食べるか(年代別)



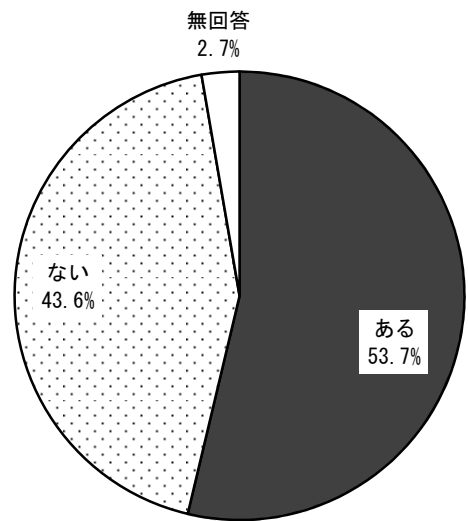
■ 健康のためにどのような食品を選んだほうが良いかや、どのような調理が必要かについての知識があると思うか

(SA) N=1,535



■ 農林漁業を体験したことがあるか

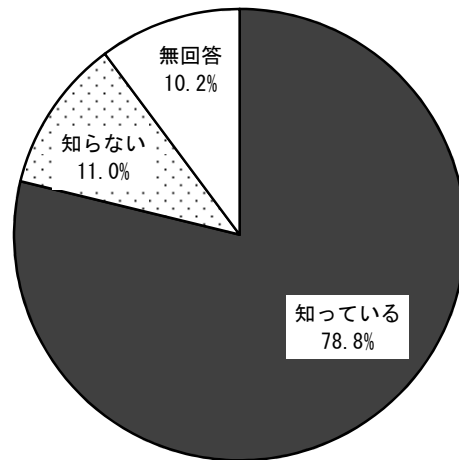
(SA) N=1,535





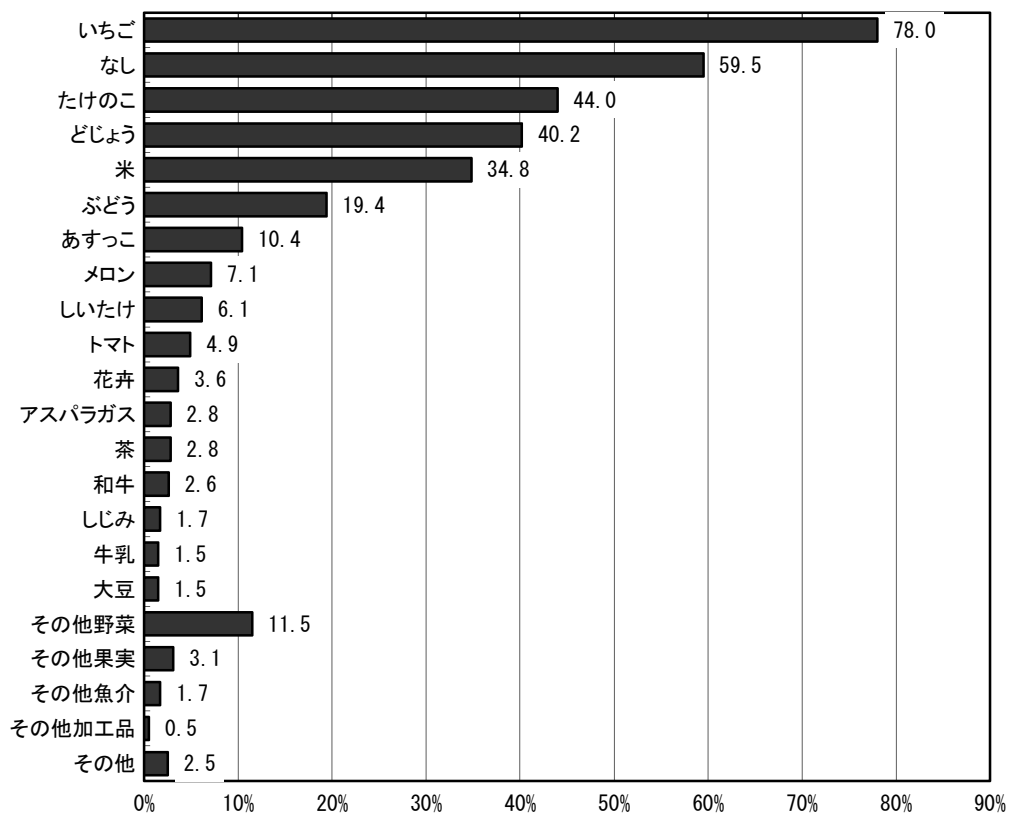
■ 安来市でとれる代表的な農林水産物について、なにか知っているか

(SA) N=1,535



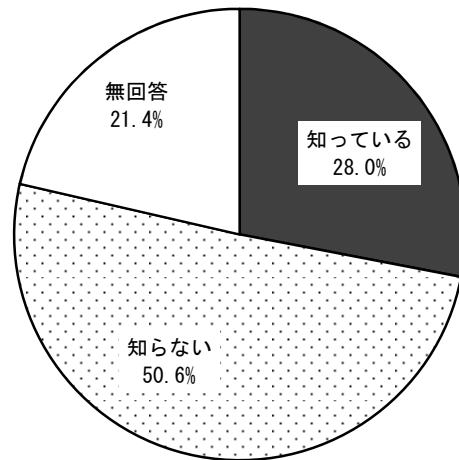
■ 安来市でとれる代表的な農林水産物について、あなたが知っているもの

(MA) N=1,206



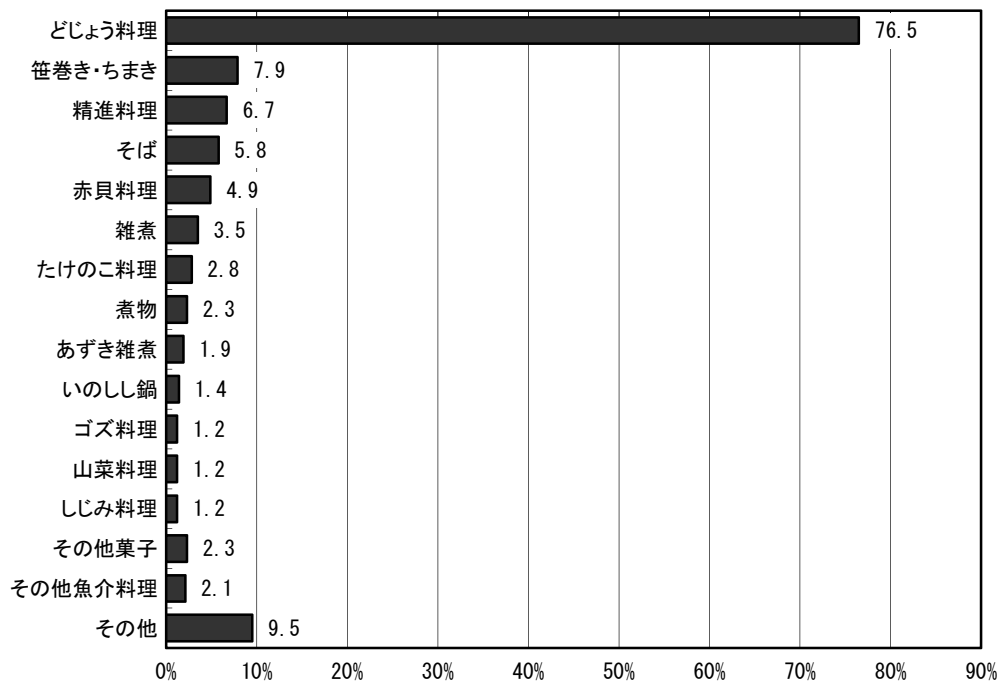
■ 安来地方の伝統料理や郷土料理について、なにか知っているか

(SA) N=1,535



■ 安来地方の伝統料理や郷土料理について、知っているもの

(MA) N=430





(3) 地域の健康づくりの現状

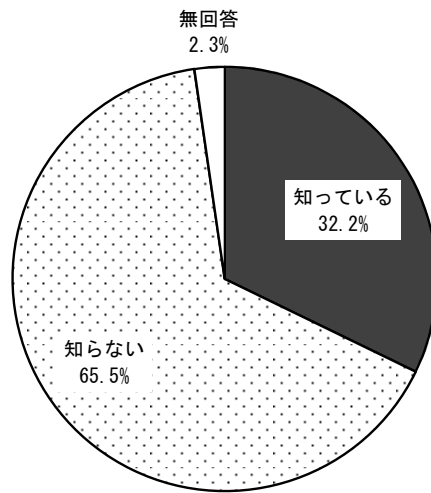
各地区の健康会議または健康推進協議会については約3分の2が「知らない」としてしています。若い人ほど知らない結果となっています。健康推進会議に別名が付いている場合、会議の趣旨がわからなかった人もいと見られます。

地域の健康づくりの活性化については「地域における健康づくり活動の意義と重要性をもっとPRする」が最も高くなっています。また、地域や学校で取り組むことへの回答が高くなっています。

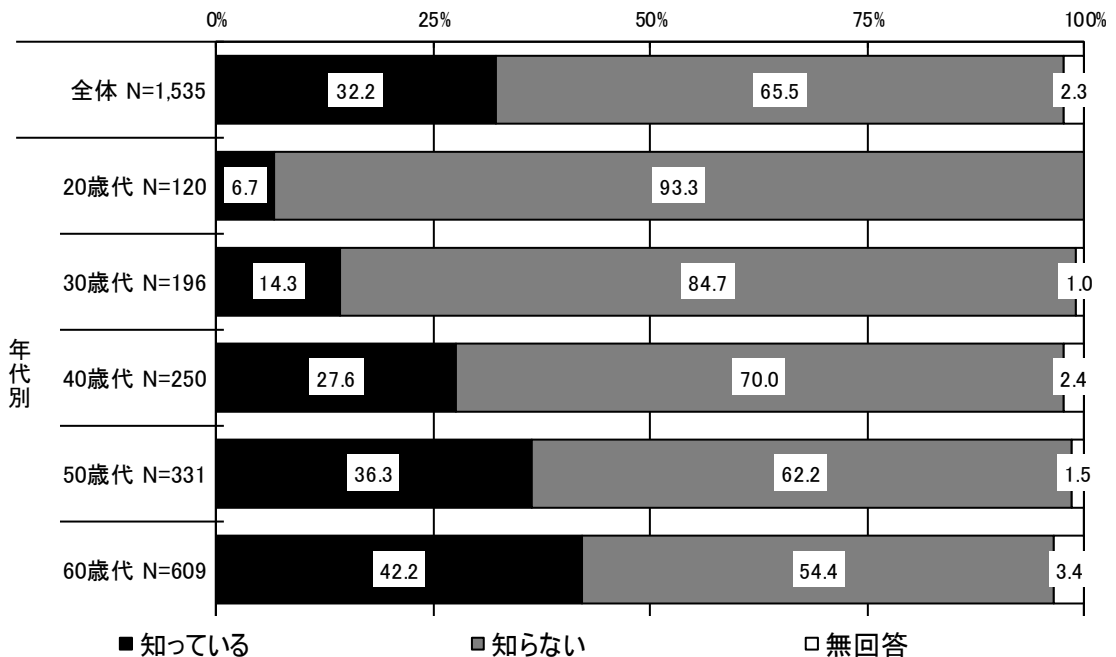
【市民意識調査の結果から】

- あなたは、あなたのお住まいの地区に、健康会議または健康推進協議会があり、地区をあげて健康増進に取り組んでいることを知っているか

(SA) N=1,535



(年代別)



■ 地域における健康づくりの活動を活発にするために重要なこと

(MA) N=1,535

